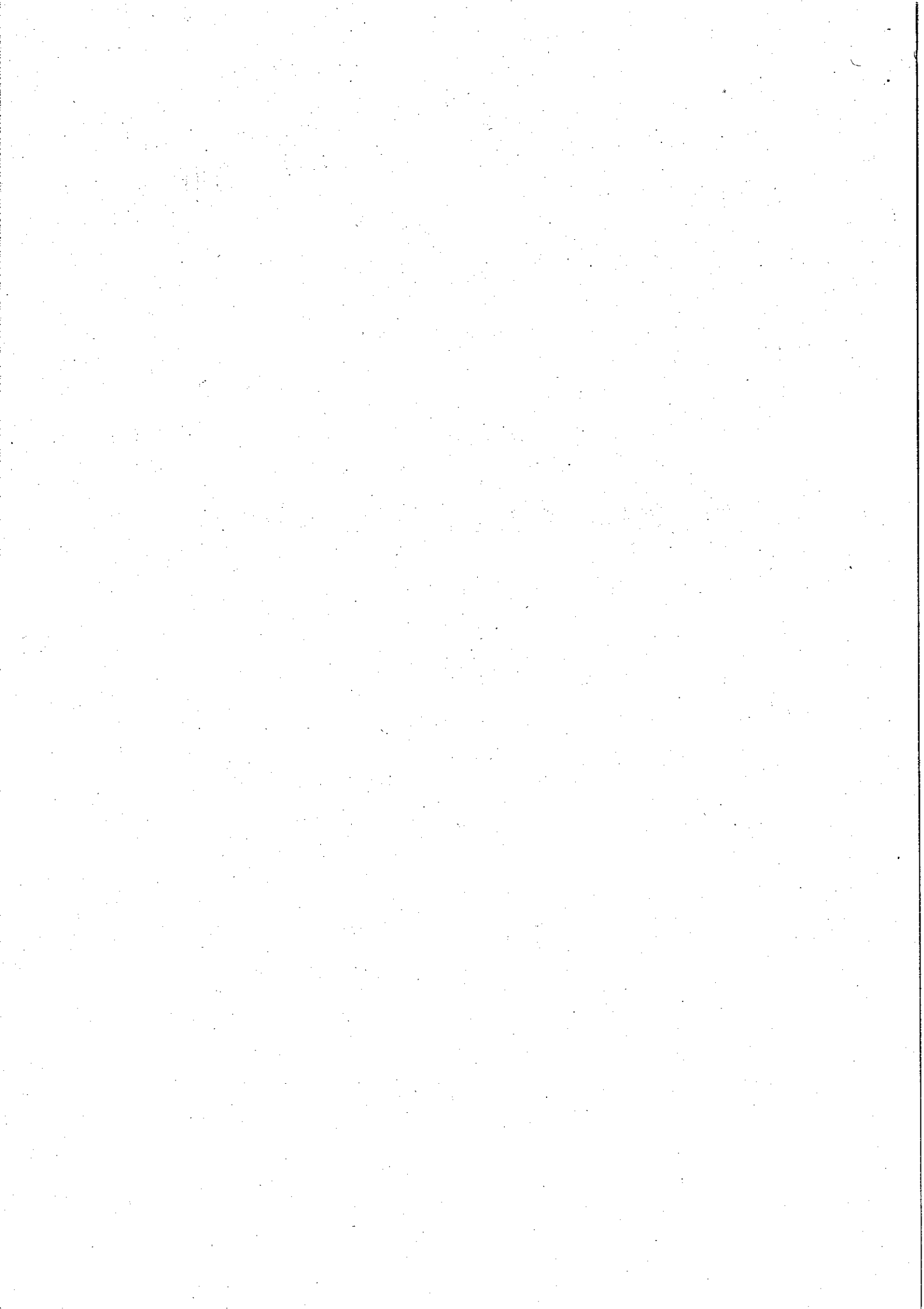


別冊 1

第2次健康くまもと21進捗管理表



1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目	(1)がん					
指標項目	1	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 (10万人当たり)	基準値	実績値	目標値	
			H22	H27	H27	
				79.8	70.3	70.0
	2	がん検診受診率の向上 (市が実施するがん検診の他、職場検診、 人間ドック等を含む)	基準値	実績値	目標値	
			H23	H30	H30	
			肺	19.9%	25.3%	40%
			胃	28.7%	33.3%	40%
大腸			27.9%	31.5%	40%	
乳	46.3%	48.0%	50%			
子宮頸	37.3%	53.3%	50%			
取り組み施策	概要					
1	発症予防	禁煙やバランスのとれた食事等がんに対する正しい知識の普及等を行い、がんの発症を予防する。				
2	早期発見	がん検診について、市民にわかりやすい情報提供や、企業や団体等と連携した啓発等をすすめることにより、がん検診の受診率向上を図る。				
3	情報発信・相談支援	がんサロンの支援やがんの治療、在宅医療に関する情報提供等を行い、患者や家族を支援する。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	禁煙指導と粘膜を刺激する歯や補綴物への対処。【市歯科医師会】
	熊本県歯科医師会が医科と連携して行っている「熊本県がん患者医科歯科連携事業」に対する協力の強化。【市歯科医師会】
	職員のがん検診(女性が多いので特に乳がん・子宮頸がん)について周知し、健康診断時受診啓発している。【県看護協会】
	地域のイベントで保健師さんと啓発を続けている。職場内でも検診を勧めた。【地域包括支援センター連絡協議会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、生活習慣病の予防、喫煙の健康影響に関する研修会を実施。また、産業医の選任義務が無い労働者数50名未満の事業場を対象に定期健康診断の有所見者に対する医師の面接指導等や保健指導を無料支援している。【熊本産業保健総合支援センター】
	粉じん作業及び特定化学物質、石綿等取扱作業を行う事業場に対する監督指導の実施。【労働基準監督署】
	がんサロン(熊本市内は13箇所(当課主催1箇所を含む))の開催【がんサロンネットワーク熊本】
	樋野興夫先生講演会「がん哲学外来へようこそ」の開催(H30.3.4)【熊本・生と死を考える会】
	肺がん医療・疾患啓発のための市民公開講座の開催(H30.3.21)【特定非営利活動法人 日本肺癌学会】
	第6回いのちを語り合う集いの開催(H30.3.31)【特定非営利活動法人いのちをつなぐ会】
2	校区主催の子育てサークルにおいて子育て世代へがん検診の啓発を実施。【西区内】
	集団検診では、後に続く(日程の)胃がん、大腸がん検診に影響を与える肺がん検診で、スタッフを増員して、現地での広報(広報車)に注力した。【市医師会】
	地域医療センターが担当する市民公開講座では、「乳がんを知ろう」と題した専門医等による講演を行った。参加者82名【市医師会】
	日常診療における口腔癌発見のための粘膜検査の充実。【市歯科医師会】
	加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含大腸・胃・肺・乳・子宮頸)を実施。【協会けんぽ】
	特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封。【協会けんぽ】
	北区、南区在住の被扶養者に対し、特定健診とがん検診同時受診勧奨DM送付。【協会けんぽ】
	定期健康診断や人間ドックによる職員のがん検診について周知し、受診啓発している。【楡木小】

2	じん肺健康診断及び有害業務にかかる定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】
	ポスター掲示による口腔癌の啓発。【市歯科医師会】
	ピンクリボン運動期間は、館内にポスター等を掲示し研修生に啓発している。【県看護協会】
3	看護職向け研修として3回シリーズでがんの基礎知識から在宅ケア、緩和ケア・精神的支援の研修を実施した。受講生計258名、内容は患者・家族の支援につながるもの。【県看護協会】
	平成28年2月23日厚生労働省より公表された「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」に基づき、長期治療を必要とする労働者が就労しながら治療を受けることができる両立支援の体制づくりや啓発活動の支援を行う両立支援促進員を設置し、事業場の産業保健スタッフ等を対象に、がんをもつ労働者と職業生活とのより良い両立支援の研修を開催するとともに、がん検診への受診向上を目的とした啓発等をおこなった。【熊本産業保健総合支援センター】

2. 関係機関・団体における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・医科の人間ドックへの歯科検診導入の働きかけ。【市歯科医師会】 ・引き続き、地域イベントで啓発を続け、職場内でも検診を勧める。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・職域におけるがん検診マニュアル、がんに関する情報をホームページ、メールマガジンにて掲載【熊本産業保健総合支援センター】
---------	---

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等																					
	国の指針に基づき、肺・胃・大腸・乳・子宮頸がんの5種の検診を実施																				
	市役所ロビー等などを利用した啓発ブースやイベント等の機会を活用し、受動喫煙に関する情報提供や日常生活における生活習慣病の予防法等について啓発を実施																				
	各種がん検診について、市政だより、市ホームページ、ラジオ、民間情報紙等で受診勧奨の広報を実施																				
	満40・46・50歳になる市民全員にがん検診勧奨はがきを送付(平成29年9月30,332人)																				
	満20・26・28・30・32・34・36・38歳になる女性に対し子宮頸がん検診受診勧奨通知を送付(平成29年8月16,537人、11月18,135人)																				
	乳がん・子宮頸がん検診において、対象年齢となる偶数年齢者の受診期間を5月末まで猶予する特例受診許可証を発行																				
	特定年齢(62、65、68歳)を対象に肺がん検診の受診勧奨ちらしを個別送付(30,097人)																				
	熊本地震により受診機会を逸した方への受診勧奨はがきの送付(平成29年9月32,830人)																				
1	協会けんぽやがん対策協定企業等との連携による受診率向上のための啓発を実施																				
	・協会けんぽ扶養者への特定受診券送付時に市がん検診の案内を同封																				
	・がん対策協定企業へ情報提供や広報を依頼																				
	協会けんぽ加入者に、集団検診の受診勧奨を実施した(植木・城南地区の集団検診)																				
	がん対策を推進する企業3社とがん対策企業等連携協定を締結した(H29.5.25、H29.11.8)																				
	がん対策連携協定企業と情報交換のための会議を開催(H29.12.19)																				
	乳がん及び子宮頸がん無料クーポン券の送付(乳がん・40歳:5,177人、子宮頸がん:3,693人)及び再受診勧奨はがきを送付																				
	がん検診受診者で要精密検査となったが未受診の者への受診勧奨を行った(対象者187人)																				
	応急仮設住宅における肺がん検診の実施(藤山仮設)及び受診勧奨案内の送付																				
	ピンクリボン月間に合わせた生命保険会社の協力による保険外交員からのがん検診受診勧奨(リーフレット等)																				
2	<p>幼児健診や子育てサークル支援、高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通じて、各種がん検診の啓発を実施。</p> <p>地域における啓発実績</p> <p>(92校区中 92校区 685回 17,999人)※その他は区単位、ブロック単位、幼児健診での啓発数含む</p> <table border="1"> <tr> <td>中央区</td> <td>(19校区 111回 3,531人)</td> <td>その他</td> <td>0回 0人</td> </tr> <tr> <td>東区</td> <td>(18校区 100回 2,357人)</td> <td>その他</td> <td>119回 3,879人</td> </tr> <tr> <td>西区</td> <td>(13校区 61回 1,774人)</td> <td>その他</td> <td>77回 1,799人</td> </tr> <tr> <td>南区</td> <td>(21校区 81回 1,259人)</td> <td>その他</td> <td>63回 1,756人</td> </tr> <tr> <td>北区</td> <td>(21校区 55回 1,279人)</td> <td>その他</td> <td>18回 365人</td> </tr> </table>	中央区	(19校区 111回 3,531人)	その他	0回 0人	東区	(18校区 100回 2,357人)	その他	119回 3,879人	西区	(13校区 61回 1,774人)	その他	77回 1,799人	南区	(21校区 81回 1,259人)	その他	63回 1,756人	北区	(21校区 55回 1,279人)	その他	18回 365人
中央区	(19校区 111回 3,531人)	その他	0回 0人																		
東区	(18校区 100回 2,357人)	その他	119回 3,879人																		
西区	(13校区 61回 1,774人)	その他	77回 1,799人																		
南区	(21校区 81回 1,259人)	その他	63回 1,756人																		
北区	(21校区 55回 1,279人)	その他	18回 365人																		

2	平成29年12月～平成30年2月に大腸がん検診の郵送検診を試行実施した。
	区内の企業に対し、従業員のがん検診受診率勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を行った。(1箇所)
3	働き世代や子育て世代を対象にしたがんサロンを毎月1回開催し、がん患者を支援(平成29年度は12回)
	がんに関する悩みや不安への相談対応及び治療法に関する情報発信等を行う「がんサポートセンター」を開設(平成25年7月1日)
	平成29年度の相談件数:102件 がん患者大交流会を開催(1回)
	熊本市からのお知らせCMでがんサロンの広報を実施。
	図書館と連携した啓発を実施。森都心プラザの図書館に、がんに関連する資料を設置(各種がんに関するパンフレット、がん相談・がんサロンの案内リーフレット、検診の案内、熊本県版がん情報冊子等)

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・20～38歳偶数年齢女性に対する子宮頸がん検診の受診勧奨案内の送付 ・40・50・60歳の方へ受診勧奨はがき送付 ・胃がん検診内視鏡検査導入(12月開始予定) ・40～50歳偶数年齢女性に対する乳がん検診の受診勧奨案内の送付 ・来年度20～38歳子宮頸がん検診対象者に対する受診勧奨案内の送付(年度末) ・来年度42～58歳乳がん検診対象者に対する受診勧奨案内の送付(年度末)
---------	--

※参考(1)

熊本市がん検診受診率(推計対象者による算出) 職場健診、人間ドック等は含まず

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
肺がん	対象者数	193,079	193,079	203,783	203,783	203,783	203,783	203,783	211,778
	受診者数	27,676	25,127	22,861	22,579	22,443	22,679	20,000	21,233
	受診率	14.3%	13.0%	11.2%	11.1%	11.0%	11.1%	9.8%	10.0%
胃がん	対象者数	193,079	193,079	203,783	203,783	203,783	203,783	203,783	211,778
	受診者数	11,688	11,022	10,556	10,107	9,904	9,477	8,658	8,952
	受診率	6.1%	5.7%	5.2%	5.0%	4.9%	4.7%	4.2%	4.2%
大腸がん	対象者数	193,079	193,079	203,783	203,783	203,783	203,783	203,783	211,778
	受診者数	21,704	24,708	22,670	22,467	22,194	22,512	18,108	19,763
	受診率	11.2%	12.8%	11.1%	11.0%	10.9%	11.0%	8.9%	9.3%
乳がん	対象者数	127,030	127,030	131,536	131,536	131,536	113,536	131,536	134,407
	受診者数	12,826	13,124	12,036	11,837	14,183	11,491	9,287	10,199
	受診率	18.9%	19.4%	18.1%	17.1%	18.9%	18.6%	14.5%	14.0%
子宮がん	対象者数	164,362	164,362	167,436	167,436	167,436	167,436	167,436	166,223
	受診者数	20,168	19,936	19,017	18,678	23,530	16,973	13,095	17,949
	受診率	23.9%	23.5%	23.0%	22.0%	24.8%	23.7%	17.0%	18.5%

※参考(2)

無料クーポン利用率
(H29実績)

(単位:人)		
対象者	利用者	利用率
5,177	1,473	24.8%
3,693	430	8.2%

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目	(2)循環器疾患						
指標項目	3	脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少 (10万人当たり)	基準値		実績値	目標値	
			H22		H27	H34	
			脳血管疾患	男性	36.3	32.5	28.4
			虚血性心疾患	女性	22.9	18.1	20.7
	4	血圧が正常域の者の増加	基準値		実績値	目標値	
			H23		H29	H34	
			51.4%		54.7%	増加傾向へ	
	5	脂質異常症(高コレステロール血症)患者の減少 ※LDLコレステロール160mg/dl以上	基準値		実績値	目標値	
			H23		H29	H34	
			男性	10.3%	9.1%	6.2%	
	女性	15.2%	13.5%	8.8%			
	6	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	基準値		実績値	目標値	
			H26		H28	H29	
			該当者	14.9%	16.2%	H20に比べ 25.0%減少	
	予備群	13.0%	11.6%				
7	特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上	基準値		実績値	目標値		
		H23		H28	H29		
		診査受診率	25.8%	26.4%	60.0%		
指導実施率	16.8%	16.0%	60.0%				
取り組み施策	機 要						
1	発症予防・早期発見	循環器疾患の予防に関する知識の普及や、特定健康診査の受診を啓発し、脳血管疾患、虚血性心疾患等の発症予防に取り組む。					
2	重症化防止	要治療者で医療機関未受診の者に受診勧奨を行うとともに、脳卒中地域連携パスの利用に関する情報提供を行うなど重症化防止に努める。					
3	推進体制の整備	市民への啓発を進めるため、医療機関や医療保険者、事業所の健康管理者等との連携を図る。					

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	熊本市医師会が担当する医専連シンポジウムでは、「心疾患を考える」と題した専門医等による講演を行った。参加者211名【市医師会】
	循環器疾患と歯周病の関係をしっかり啓発する。【市歯科医師会】
	熊本市内4ヶ所、市外10か所で健康相談・血圧測定・体脂肪測定を行う「まちの保健室」において高血圧者に関して食事・運動について等パンフレット配布や説明を実施している。【県看護協会】
	地域サロンで講話をし、予防を促した。【地域包括支援センター連絡協議会】
	加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含大腸・胃・肺・乳・子宮頸)を実施。【協会けんぽ】(再掲)
	被扶養者に対し、イオンモール他市内10会場で特定健診の集団健診を実施。【協会けんぽ】
	加入者本人に対し、支部保健師・管理栄養士もしくは健診機関等への委託により特定保健指導を実施。【協会けんぽ】
	被扶養者に対し、食事・運動の実践を取り入れたグループ支援セミナーを実施。【協会けんぽ】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り脳卒中や心臓病の予防に関する研修や呼吸機能検査の活用(-COPDの啓発-)、運動指導士による実技を取り入れた研修を開催。【熊本産業保健総合支援センター】
	職員の定期的健康診断や人間ドック受診により、早期発見と予防の意識を高める。【楡木小】

1	定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】
	歯周病をコントロールすることにより、循環器疾患の改善や予防に寄与する。【市歯科医師会】
	血圧高値者に対し受診勧奨を実施。【協会けんぽ】
2	平成28年2月23日厚生労働省より公表された「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」に基づき、長期治療を必要とする労働者が就労しながら治療を受けることができる両立支援の体制づくりや啓発活動の支援を行う両立支援促進員を設置し、事業場の産業保健スタッフ等を対象に、脳卒中、心疾患、肝疾患等をもつ労働者と職業生活とのより良い両立支援の研修を開催。また両立支援相談窓口を開設。【熊本産業保健総合支援センター】
3	医科歯科連携の強化。【市歯科医師会】
	協会けんぽ等医療保険者との連携。【県栄養士会】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 市民への啓発を活発に行う。【市歯科医師会】 医療保険者等との連携強化。【県栄養士会】 引き続き地域サロンなどで促していく。【地域包括支援センター連絡協議会】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	<p>5月の高血圧の日に併せた啓発を実施。市役所1階ロビーにてパネル展示</p> <p>ラジオや市政だよりを活用した啓発</p> <p>若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、フェイスブックで健康情報を発信</p> <p>子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、循環器疾患の予防等に関する情報提供や特定健診の受診を啓発</p> <p>・平成29年度地域における循環器疾患の啓発実績 (92校区中 77校区 計 376回 9,571人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数 中央区(17校区 45回 1,098人) 東区(17校区 58回 1,345人 その他 12回 454人) 西区(13校区 67回 2,489人 その他 42回 1,303人) 南区(20校区 110回 1,806人 その他 25回 572人) 北区(10校区 14回 429人 その他 3回 75人)</p> <p>・平成29年度地域における特定健診の啓発実績 (92校区中 88校区 計 452回 12,676人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数 中央区(19校区 100回 3,432人) 東区(16校区 76回 2,319人 その他 1回 97人) 西区(13校区 88回 2,752人 その他 25回 774人) 南区(19校区 94回 1,575人 その他 2回 36人) 北区(21校区 47回 1,286人 その他 19回 405人)</p> <p>・健康習慣スタートセミナー 東区(1回 10人) ・骨粗しょう症予防教室 南区(1回 18人)</p> <p>ささえりあが主催するサロンサポーター養成講座(1クール3回で3クール開催)の運営委員として、血圧や体組成測定を行い、サポーター自身の健康づくりについて働きかけを行った。</p> <p>特定健診受診率向上及び保健指導利用率向上のため、国保加入者に対し、電話・ハガキによる受診勧奨(特定健診:電話約60,000件・ハガキ約87,000枚、特定保健指導:電話約2,700件)</p>
---------	---

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<p>【熊本市いきいき健康大使による健康意識の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくり月間である9月に本庁舎等において1ヶ月間、ブックペアが作成した「夢は長生き」の歌を流し健康づくり啓発を実施。 その他2団体(ミス・ユニバース・ジャパン熊本、S.K.K.(子宮頸がん検診普及ボーカルユニット))についても各種イベントにおいて健康づくりの啓発を実施。
---------	--

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目		(3)糖尿病			
指標項目	8	治療継続者の割合の増加 HbA1c6.5%(NGSP値)以上で治療中の者の割合	基準値	実績値	目標値
			H23	H29	H34
	9	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少 ※HbA1cが8.4%(NGSP値)以上の者	基準値	実績値	目標値
			H23	H29	H34
	10	糖尿病有病者の増加の抑制 糖尿病治療薬内服中またはHbA1c6.5%(NGSP値)以上未治療中者の割合	基準値	実績値	目標値
			H23	H29	H34
取り組み施策		概 要			
1	発症予防	糖尿病の発症予防のため、糖尿病やその予防法について正しい理解(知識や技術等)の普及啓発を図る。			
2	早期発見	糖尿病の早期発見のため特定健診・職域での定期健診等の受診率向上や保健指導の徹底を行う。			
3	重症化防止	糖尿病の重症化を防ぎ、合併症や心血管疾患の発症予防、進展抑制を図る。			
4	推進体制の強化	地域保健医療の連携体制、職域や地域コミュニティ等において糖尿病の発症予防から悪化防止までの推進体制の整備を図る。			

1. 主な取り組み状況等

		具体的な内容等
1		熊本県歯科医師会が行っている糖尿病歯周病連携事業に、さらなる協力をはかる。【市歯科医師会】
		歯周病の定期管理を徹底する。【市歯科医師会】
		患者への啓発の強化。【市歯科医師会】
		糖尿病看護認定看護師による「できることから始めよう、糖尿病予防への第1歩」と題し、シティFM健康サロンに出演。【県看護協会】
		区のイベント等へ参加して健康相談等の実施。【県栄養士会】
		地域サロンで講話をした。【地域包括支援センター連絡協議会】
		空腹時血糖100mg/dl以上125mg/dl未満のリスク保有者について、平成26~28年度の経年データと啓發文書を送付。【協会けんぽ】
		事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り糖尿病の予防に関する研修や、運動指導士による実技を取り入れた研修を開催。【熊本産業保健総合支援センター】
		東区健康まちづくり推進員(58名)が各校区、町内、老人会、サロン等でPRに努める。【東区内】
		健康まちづくりの取り組みとして校区主催のイベントにおいて保健子ども課との共催で糖尿病やその予防等に関する情報提供を実施。【西区内】
2		重度の歯周病患者への糖尿病検査の励行。【市歯科医師会】
		加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含大腸・胃・肺・乳・子宮頸)を実施。【協会けんぽ】(再掲)
		被扶養者に対し、イオンモール他市内10会場で特定健診の集団健診を実施。【協会けんぽ】(再掲)
		加入者本人に対し、支部保健師・管理栄養士もしくは健診機関等への委託により特定保健指導を実施。【協会けんぽ】(再掲)
		被扶養者に対し、食事・運動の実践を取り入れたグループ支援セミナーを実施。【協会けんぽ】(再掲)
		職員の定期的健康診断や人間ドック受診により、早期発見と予防の意識を高める。【楡木小】
		学校、地域の夏まつり、福祉まつり等に健康ブースを設けてもらい、保健師とともに健康まちづくり推進員がPRに努める。【東区内】
定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】		

	糖尿病フォーラム等や栄養相談コーナー、クリニック等への栄養士の派遣(紹介)。【県栄養士会】
3	<p>血糖高値者へ文書及び電話による受診勧奨を実施【協会けんぽ】</p> <p>(対象者)</p> <p>一次勧奨対象者:空腹時血糖126mg/dl以上HbA1c6.5%(NGSP値)以上</p> <p>二次勧奨対象者:空腹時血糖160mg/dl以上HbA1c8.4%(NGSP値)以上</p> <p>(方法)</p> <p>一次勧奨対象者へは文書、二次勧奨対象者へは2回の文書または1回文書+電話による勧奨を行った。</p> <p>(勧奨人数)</p> <p>一次勧奨:5,357人 二次勧奨:1,276人</p>
	糖尿病治療中の被保険者について糖尿病性腎症予防支援プログラムを提案し、参加希望者に対して6ヶ月のフォローを実施。(参加者21名)治療中断者については、治療再開とプログラム参加を勧奨。【協会けんぽ】
	平成28年2月23日厚生労働省より公表された「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」に基づき、長期治療を必要とする労働者が就労しながら治療を受けることができる両立支援の体制づくりや啓発活動の支援を行う両立支援促進員を設置し、事業場の産業保健スタッフ等を対象に、脳卒中、心疾患、肝疾患等をもつ労働者と職業生活とのより良い両立支援の研修を開催。また両立支援相談窓口を開設。【熊本産業保健総合支援センター】
	歯周病の定期管理を徹底する。【市歯科医師会】
4	<p>医科歯科連携の促進。【市歯科医師会】</p> <p>「事業場における治療と職業生活の両立支援」啓発に関する各団体との共催セミナーを開催し、事業場においての体制づくりを啓発。【熊本産業保健総合支援センター】</p>

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・区のイベント等へ積極的に参加して健康・栄養相談の実施。【県栄養士会】 ・重症化予防のため栄養士のいないクリニックへの栄養士派遣等を実施。【県栄養士会】 ・引き続き、地域サロン等で講話をしながら予防を促していく。【地域包括支援センター連絡協議会】
---------	---

3. 行政における主な取り組み状況等

	取り組み状況等
	平成24年度から11月の世界糖尿病デーに併せた啓発を実施 市役所1階ロビーにてパネル展示(再掲(2)循環器疾患)
	ラジオや市政だよりを活用した啓発(再掲(2)循環器疾患)
	若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、フェイスブックで健康情報を発信(再掲(2)循環器疾患)
1	<p>幼児健診や、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援、糖尿病予防教室等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、糖尿病やその予防等に関する情報提供を実施</p> <p>地域における啓発実績</p> <p>(92校区中 85校区 計429回 13,975人)※その他は区単位、ブロック単位での啓発数</p> <p>中央区(19校区 120回 4,217人 その他 6回 197人)</p> <p>東区(18校区 111回 2,674人 その他 24回 1,836人)</p> <p>西区(13校区 62回 2,442人 その他 42回 1,303人)</p> <p>南区(16校区 35回 723人 その他 2回 16人)</p> <p>北区(19校区 19回 387人 その他 8回 180人)</p>
	<p>予防教室の実施</p> <p>・糖尿病予防教室</p> <p>中央区(2回 27人)西区(2回コース 延37人)北区(2回コース×2回 延60人)</p>
	<p>市民が健康的な生活習慣を身につけ糖尿病を予防するために、「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」協力の下に校区イベントやけんつく会医療機関で簡易血糖検査を行い啓発を行う。(簡易血糖検査 661人)</p> <p>糖尿病の早期発見のため、校区単位の健康まちづくりの取組で、東区健康をつくるボランティア医師・歯科医師の会(通称とんぼの会)との連携による随時血糖測定を実施。(5校区と区民まつりで実施 参加者318人)</p>
	集団健診の結果説明会で、個別相談を実施。(7回 85人)
	国保特定健診実施機関から受診者へ結果説明を行う際に使用するリーフレットを作成(12,000枚)
2	糖尿病の早期発見のため、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取組を通して、特定健診の受診啓発を実施。(92校区中88校区 計452回 12,676人)
3	国保特定健診の結果、糖尿病疑いの者に対して保健師や管理栄養士による受診勧奨を実施(文書・電話・訪問)実績:平成29年度国保特定健診受診者でHbA1c6.5以上かつ生活習慣病未治療者374人

4 熊本県や熊本大学代謝内科等、関係機関との連携強化を図ると共に、市内のCKD保健指導プロジェクト会議等を開催。

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み

- ・「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」との共催で、各校区での健康づくりイベント及び協力医療機関において簡易血糖検査を実施し、測定した検査結果をもとに受診勧奨及び保健・栄養指導を行なう。
- ・保健・栄養指導参加者が生活習慣改善目標を設定し、健康づくりに取り組めるよう支援するとともに参加者のデータを評価・活用し、効果的な意識啓発を実施する。
- ・糖尿病教室の開催(1回 30名)。市政だよりによる公募と国保特定健診受診者のうち生活習慣病対策フォローアップ基準表に基づく対象者に対し案内を行う予定。
- ・平成30年6月から北区の幼児健診同行保護者に対し、問診・簡易血糖検査、骨密度検査を実施する。検査の結果、すぐに改善が必要な者に対し、保健指導を行う。
- ・国保特定健診結果と国保レセプトデータから糖尿病治療中断者を把握し必要な者へ受診勧奨を実施する。熊本県糖尿病対策推進会議をはじめとする関係機関と連携を図り糖尿病性腎症重症化予防プログラムに取り組む。

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目	(4)CKD(慢性腎臓病)			
指標項目	11 新規人工透析者数の減少	基準値	実績値	目標値
		H29	H29	H30
		273人	234人	200人
取り組み施策	概要			
1 発症予防	CKDの発症予防のためCKDやその予防法について正しい理解(知識や技術等)の普及啓発を図る。			
2 早期発見	CKDやCKDの危険因子である糖尿病や高血圧などの早期発見のために、特定健診・職域での定期健診等の受診率向上や保健指導の徹底を行う。			
3 重症化防止	要医療者(腎機能悪化者、糖尿病者、重症高血圧者など)へ医療機関受診勧奨を行い、CKDや心血管疾患などの予防、進展抑制を図る。			
4 推進体制の強化	地域保健医療の連携体制、職域や地域コミュニティ等においてCKDの発症予防から悪化防止までの推進体制の整備を図る。			

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	糖尿病を原因とするCKD発症予防のため、歯周病を管理することにより糖尿病の重症化や発症を防ぐ。 【市歯科医師会】
	口腔咽頭の慢性感染症とIgA腎症との関連が言われているので、患者の啓発と治療の徹底を行う。 【市歯科医師会】
	糖尿病からCKDへ移行しないように食事の指導を実施。【県栄養士会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、CKDの危険因子である糖尿病や高血圧等に関する研修会を実施。 【熊本産業保健総合支援センター】
2	校区主催のイベントに保健子ども課との共催で啓発活動の実施。【西区内】
	口腔内に異常を感じられた時は、医科の受診を勧める。【市歯科医師会】
	職員の定期的健康診断や人間ドック受診により、早期発見と予防の意識を高める。【楡木小】
3	定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】
	歯周病の予防管理を徹底する。【市歯科医師会】
4	医専連との連携を図り、CKDの予防のための栄養指導を実施。【県栄養士会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り糖尿病からのCKD予防に関する研修や、運動指導士による実技を取り入れた研修を開催。【熊本産業保健総合支援センター】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 口腔内との関連性がまだまだ認知されていないので、啓発活動を行う。【市歯科医師会】 糖尿病からCKDへの移行を減らすように栄養士のいないクリニックからの派遣要望に応じていく。【県栄養士会】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

	取り組み状況等
1	3月の世界腎臓デーに併せた啓発を実施。市役所1階ロビーにてパネル展示(再掲(2)循環器疾患、(3)糖尿病)
	ラジオや市政だより、CKDホームページ等を通じた啓発(再掲(2)循環器疾患、(3)糖尿病)
	若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、フェイスブックで健康情報を発信(再掲(2)循環器疾患、(3)糖尿病)
	幼児健診や、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、CKDやその予防等に関する情報提供を実施
	地域における啓発実績 (92校区中 70校区 計 249回 7,790人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数 中央区(16校区 54回 2,003人 その他 1回 44人) 東区(17校区 61回 1,474人 その他 15回 1,046人) 西区(11校区 31回 938人 その他 42回 1,303人) 南区(13校区 19回 278人 その他 3回 174人) 北区(13校区 17回 398人 その他 6回 132人)

	CKDの予防や早期発見のため、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取組を通して、循環器疾患や糖尿病の予防、特定健診の受診啓発を実施(再掲(2)循環器疾患、(3)糖尿病)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における循環器疾患の啓発実績 (92校区中 77校区 計 376回 9,571人) ・地域における糖尿病の啓発実績 (92校区中 85校区 計 432回 14,120人) ・地域における特定健診の啓発実績 (92校区中 88校区 計 452回 12,676人)
	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果がCKD予備群の方を対象としたCKD予防健康相談 東区(49人) ・特定健診の結果がCKD予備群を対象に訪問による受診勧奨および保健指導(西区74人)
	特定健診受診率向上のため、医療機関と治療中者に対する受診勧奨の取組強化、協会けんぽとの共同事業の実施(再掲(2)循環器疾患)
3	<p>かかりつけ医から腎臓専門医への患者紹介件数(CKD病診連携実績) 平成29年度129件(累計1,650件)</p> <p>国保特定健診の結果、CKDの疑いがある未治療者に対して保健師や管理栄養士による受診勧奨を実施(文書・電話・訪問)実績:平成29年度国保特定健診尿蛋白+以上かつ生活習慣病未治療者368人</p>
	CKD対策推進会議(市医師会、公的病院、健診機関、市民団体等で構成)で各関係機関との協働による取組の推進(58団体104人参加)
	かかりつけ医と専門医とのCKD病診連携の推進を図るため、かかりつけ医説明会を医師会と協働で実施(2回 243人) CKD病診連携医数(内科医標榜59.3%) 338人
4	かかりつけ医と専門医との連携を図るためのプロジェクト会議開催(3回)
	かかりつけ医と専門医等によるプロジェクト会議により病診連携システムの効果検証等の実施
	CKDの保健指導等を円滑に実施するため、関係課を集めたCKD対策推進保健指導プロジェクトを開催(2回)
	事業開始後9年を経ての検証・事業評価を行う。

4. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	1歳6ヶ月健診時、妊娠中尿蛋白陽性者(保護者)に対する検査キットの配布。
---------	--------------------------------------

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目	(1)こころの健康				
指標項目	12	自殺者の減少(人口10万人当たり)	基準値	実績値	目標値
			H17	H28	H28
	13	睡眠を十分にとっている市民の割合	19.3	16.1%	15.4
			基準値	実績値	目標値
	14	ストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合	H24	H29	H30
			53.3%	50.3%	68.7%
		基準値	実績値	目標値	
		H24	H29	H30	
		51.1%	43.1%	65.7%	
取り組み施策	概要				
1	早期発見や啓発等	こころの健康相談などを通して、うつ病の早期発見や早期治療につなげるとともに、市民への精神疾患についての啓発を行う。			
2	子どもたちのこころの健康	子どもたちのこころの健康保持と子どもたちを取り巻く関係者への児童思春期の精神保健等の理解の普及を図る。			
3	自殺対策	自殺対策として包括相談会や啓発等を行うとともに、関係者間の連携強化を図る。			

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	ストレスチェックは、ヘルスケアセンターが担当し、約40事業場、約4,500名を対象に実施した。 【市医師会】
	歯の問題からうつにつながるケースも報告されているので、精神状態までよく観察して必要があれば学校や家庭と連携して行く【市歯科医師会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルスケア関連及びストレスチェック制度導入等の研修会を開催。また、事業場の要請による個別訪問を実施しメンタルヘルスに関する取り組み支援を実施。 【熊本産業保健総合支援センター】
	保育士等の保育に携わる職員を対象に「心のケア」の研修をおこなった。58名の参加があった。【市保育園連盟】
	教職員対象の「精神科医・臨床心理士による相談」の日程周知を行うとともに、年1回のストレスチェックを実施する。 【楡木小】
	事業場におけるストレスチェックの確実な実施を指導。【労働基準監督署】
2	「熊本こころの健康アドバイザー制度」の周知。【労働基準監督署】
	口腔内に虐待の兆候が現れている事があるので、注意するとともに、気になる時は学校等に連絡をする。 【市歯科医師会】
	養護教諭やSC等と連携し、相談活動を実施している。また、月1回のきずなアンケートや年1回の心のアンケートを実施している。4年生、5年生の体育(保健領域)では、二次性徴や心の健康の学習を行っている。【楡木小】
3	熊本市の各小中学校単位PTAにおける研修会の実施に助成する単P研修会助成制度の展開。H29年度は総計25校に助成金を支給(上限1万円)H28年度は震災後の心のケアに関する講演会が多かったがH29は各校ごとに特色のある講演・研修会が実施された。(例:壺川小1/31「こどもとの対話の秘訣」講師:西村岳人)(例:池田小9/28「こころが育って生き易くなるということ。」講師:岡崎光洋)【PTA協議会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、職場における自殺の予防と対応をテーマとした研修会の実施、並びに自殺予防に関する情報提供を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	かみ合わせの不調や顎関節症と心の健康との関連が言われているので、その点にも配慮しながら治療にあたる。【市歯科医師会】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	心の健康相談を1回/月各区役所で実施。(精神科医による予約制の個別の面接相談等) 南区はH29年度休止
	熊本地震被災者向け配布資料「被災されたみなさまへ」、支援者向け資料「時間の経過に応じた支援」を作成・配布。
	震災後の心理的な影響と対処法、相談先の案内を、ラジオ、テレビ、市政だより、ホームページで啓発。
	うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療を図るため、「かかりつけ医等心の健康対応力向上事業」を実施(県との合同事業)
2	精神疾患について、ホームページやラジオを活用した啓発を実施。また、自殺対策強化月間には、ラッピング電車の運行し、自殺予防の啓発を行った。
	精神科医師・心理士・保健師等による相談を実施(こころの健康センター相談件数 延べ7,001件、区役所等6,492件)
	幼児健診等の子どものこころのアンケートを実施し、子どものこころのケアについて個別相談を実施。子どものこころのケアを含む震災リーフレット3種を作成し、幼児健診や赤ちゃん訪問、育児サークル等で配布しながら啓発している。
	精神的問題や育児不安等を抱える妊産婦に、産科医療機関と連携し妊娠中から訪問等の支援を実施。出産後も産後うつ等の産婦への訪問等を早期に実施し、切れ目のない支援を行っている。
3	思春期の精神保健福祉に関する研修会(思春期精神保健福祉研修会)を教育・医療・福祉関係者を対象に開催(1回参加者 209人)。
	熊本地震被災者向け配布資料「震災後の子どものこころやからだのケアのために」を作成・配布。 幼児健診時配布資料「被災されたお子さんをお持ちの家族の方へ」を作成・配布。
	学校におけるこころの健康についての環境整備や早期発見の取り組みとして、児童生徒や保護者が悩み等を話せるようにスクールカウンセラー、心のサポート相談員の配置やスクールソーシャルワーカー、ユア・フレンドを派遣した。特に、熊本地震の発生に伴い、本市のスクールカウンセラーが児童生徒の心のケアにあたった。 (スクールカウンセラー相談数 延べ8,958件、心のサポート相談員対応件数 延べ10,859件、スクールソーシャルワーカー派遣数753件、ユア・フレンド派遣学校数60校)
	スクールカウンセラーを全中学校42校に配置し、全小中学校に対応するとともに、地震による心のケアを必要とする児童生徒に対応できる体制を整えた。また、スクールソーシャルワーカーは、スーパーバイザー1人、区担当5人、広域担当3人の9人体制で活動した。
4	いじめの未然防止、早期発見に向け、実態を把握し早期に解決するため小中学校の児童生徒を対象に、毎月1回「きずなアンケート」及び高校も含めた年1回「心のアンケート」を実施。
	急激な環境の変化等による精神的な悩みや不安等を抱える児童生徒の心のケアに対して、緊急対応相談員(臨床心理士)の派遣を実施。(対応件数34件)また、緊急対応相談員(弁護士)によるいじめ等の問題行動等への相談・支援を実施(対応件数7件)
	精神保健福祉ネットワーク連絡会に参加し、情報交換、事例検討会を行なった。
5	自殺予防週間等を活用し、精神科医・弁護士等による包括相談会(相談件数 延べ48件)や、九州・沖縄一斉電話相談(相談件数154件)を実施。
	災害時のこころのケア研修会(6回 延べ参加者数577人)、ゲートキーパー養成研修(3回 参加者数62人)、ふれあい出前講座等におけるゲートキーパーの啓発(8回 参加者数327人)自死遺族グループミーティング(7回 延べ参加者数22人)、自死遺族支援を考える講演会(1回 参加者数42人)

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ゲートキーパー養成研修を29年度同様、年度初めに追加実施。 震災後の心のケア研修、相談会を熊本県精神保健福祉センター、熊本こころのケアセンターと共催で企画実施する。 アルコールに関する講演会の開催予定。
---------	---

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目	(2)次世代の健康					
指標項目	15	全出生数中の低出生体重児の割合の減少	基準値	実績値	目標値	
			H22	H28	H34	
				9.2%	9.8%	減少傾向へ
	16	肥満傾向にある子どもの割合の減少 (小学校5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合)	基準値	実績値	目標値	
			H23	H29	H34	
			男子	3.98%	4.50%	減少傾向へ
			女子	2.92%	3.20%	減少傾向へ
	17	運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合の増加 (週に3日以上運動習慣のある小学5年生)	基準値	実績値	目標値	
			H23	H29	H34	
			男子	66.3%	63.0%	増加傾向へ
		女子	41.4%	43.0%	増加傾向へ	
18	子どもたちが健やかに成長していると感じる市民の割合	基準値	実績値	目標値		
		H24	H29	H30		
			56.4%	58.4%	65.0%	
19	子育てが楽しいと感じる市民の割合	基準値	実績値	目標値		
		H24	H29	H30		
			83.8%	85.3%	90.0%	
取り組み施策	概 要					
1	早産予防	低出生体重児の減少を図るため妊娠前や妊娠期の心身の健康づくりを推進する。				
2	子どもの健康的な生活習慣の獲得	子どもの健やかな発育や生活習慣の形成のため、健康支援や子育て支援の充実を図るとともに、保育園や幼稚園、学校等、関係機関との連携強化を図る。				
3	子育てしやすい環境づくり	子育て中の親子が地域の中で安心して暮らしていけるために、地域の子育て情報の提供や親子同士の交流を行うなど、地域での子育て支援の充実を図る。				
4	思春期等への支援	性感染症の予防など思春期等における健康づくりを行う。				

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	妊婦歯科健診の徹底と、歯周病や喫煙と早産との関係の啓発を行う。【市歯科医師会】
	産婦人科、行政と歯っぴー39チャレンジの啓発を行う。【市歯科医師会】
2	全市内小学校4年生で肥満度20%以上の児童を対象にして希望者に予防検診を実施した。受診者数は332名。後日、その児童と保護者に対して医師、栄養士、理学療法士らからの講話会を開催した。【市医師会】
	小児科、行政と歯っぴー39チャレンジの啓発を行う。【市歯科医師会】
	ハッピーライフカード無料健診への協力。【市歯科医師会】
	子どもの夜更かし、睡眠不足が脳に与える影響についての研修会を開催した。保育関係者115名が参加した。【市保育園連盟】
	食事、睡眠、運動の生活習慣等について、保健指導や3年生以上の保健学習を通して、学習し、習慣化・行動化に向けて実践している。【楡木小】
	引き続き、熊本地震における子どもの心の動きを注視し、心の解放を踏まえ、外遊びや運動遊びを意識的に取り入れながら、日常生活リズムを取り戻し、基本的な生活習慣を習得する。【私立幼稚園・認定こども園協会】
	熊本市の各小中学校単位PTAにおける研修会の実施に助成する単P研修会助成制度の展開。H29年度は総計25校に助成金を支給(上限1万円)H28年度は震災後の心のケアに関する講演会が多かったがH29は各校ごとに特色のある講演会・研修会が実施された。(例:出水南小10/24「家庭教育について～子育ては自分育ちわいわいがやがやトキнг～」講師:民永博美氏他3名)(例:附属小6/13「子育てに生かすコーチング～親子の程よい距離間の保ち方～」)【PTA協議会】
保育園とタイアップムサシっ子、子育てサークル、もうすぐパパママセミナーの実施。【北区内】	
子育て、家庭訪問。【北区内】	

3	子ども、親世代、高齢者等と一緒に集えるイベントを用意している。【地域包括支援センター連絡協議会】
	各園及び団体を通して、「子育て相談・研修会案内・体験保育(未就園の子どもを対象)」等の情報を配信すると共に、保護者間の交流ができる空間の提供に努める。【私立幼稚園・認定こども園協会】
	PTA講演会、就学時健康診断時の講話等を通して、就学や子育てに関する情報提供と支援を行っている。【楡木小】
	校区社会福祉協議会、主任児童委員、地域ボランティアによる子育てサークルを実施し、異世代間交流。【東区内】
4	校区子育て支援ネットワークの活動について校区自治協の会議の中で情報共有および意見交換を実施。【西区内】
	中学校・民児協・保健子ども課との協働で、中学生と子育て世代の交流会を等開催。【西区内】
	毎年2日間の子育て教育を実施。【北区内】
	歯科への来院が減る時期なので、注意喚起を行う。【市歯科医師会】
4	ハッピーライフカード無料健診への協力【市歯科医師会】
	助産師職能委員会で、助産師が県下の高校3校、中学12校、小学校1校に「性教育出前授業」を実施しているが、熊本市外が殆どである。【県看護協会】
	保健学習や性に関する指導等を通して、思春期の健康づくりの学習を行っている。【楡木小】
	中学生と赤ちゃんのふれあい交流会の開催。【北区内】
	命の大切さ、中学生との交流会。【北区内】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	歯っぴー39チャレンジの啓発、普及と定着。医師会等、他団体の協力をさらに仰ぐ。【市歯科医師会】 H29年度と同じように多世代が交流できるイベントを開催していく。【地域包括支援センター連絡協議会】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	母子手帳発行等の妊産婦健康相談にて、喫煙や休息、妊娠糖尿病等の早産予防について保健指導を実施。
	妊娠中の母体を保護し疾病や異常を予防し、健やかに生み育てるよう援助するため、妊婦健康相談を実施。相談日以外でも専門職が対応している。(合計 7,146件 相談日 3,029件、相談日外 4,117件) 中央区(相談日件 894件、相談日外 972件)東区(相談日 834件、相談日外 1,252件) 西区(相談日 374件、相談日外 472件)南区(相談日 515件、相談日外 686件) 北区(相談日 412件、相談日外 735件)
	医療機関との連携を図るとともに早産予防に情報共有を図り、連携を図れるため「出産をめぐる赤ちゃんとお母さんの安心づくり地域連絡会」を産科医療機関、小児医療機関及び県助産師会、区役所保健子ども課等と協働で開催。(1回開催139人参加)
	認定こども園やまなみ主催の「やまなみマタニティ広場」にて、妊婦を対象とした健康教育・育児の技術指導を実施。(4回)
2	地域、学校、区役所が連携して中高校生と乳児・保護者の交流会を実施。(16回開催 延べ4校 延べ参加生徒数304人)
	地域の子育て支援を、地域で考え、実践するしくみを作り、地域の子育て支援活動を支援するため、各校区で住民や子育て支援に係る関係機関と協働して、子育て支援ネットワーク活動を実施している。また、子育て支援ネットワーク連絡会を市全体と各区役所保健子ども課で定期的開催し、各区や各校区の情報交換や課題解決のための意見交換を行い、研修会や子育て関連のイベント等で啓発活動等を実施している。平成29年度は、熊本地震の振り返り、災害時に子どもをどう守るかというテーマで、歌う防災士による講演を開催。 熊本市子育て支援ネットワーク連絡会議 4回開催 研修会 1回開催 参加人数 213人 各区役所子育て支援ネットワーク連絡会議開催 全区 21回 (中央区 3回、東区 4回、西区 2回、南区 1回、北区 11回) 各校区子育て支援ネットワーク会議開催 全区 285回 (中央区 34回、東区 109回、西区37回、南区 34回、北区 71回) 各区及び各校区の研修会開催 全 12回 参加人数 621人 (中央区 3回 96人、東区 1回 54人、西区 2回 172人、南区 3回 147人、北区 3回 152人)

	区役所、校区で子育て支援センターと協働で両親学級を実施
	育児サークルや就学前健診、学校保健委員会での子どもや保護者を対象とした生活習慣予防等についての健康教育を実施した。各校区での子育てサークル支援団体数 84箇所 651回開催
	防災リーフレット「子どもを守る防災術」を活用した防災教育 10校区と東区食育推進ネットワークで実施
2.	東区子育て支援ネットワーク活動事例集作成(300冊)
	子どもの生活習慣やメディアの使い方について、子育てサークルや学校保健委員会の場で関係機関と連携し、健康教育を実施。(学校保健委員会、延7校参加)(西区学校保健委員会:4校参加)
	母親の育児不安を解消し、子どもの健康の保持増進を図るため、育児相談を実施。
	地域、学校、区役所が連携して中高生と乳児・保護者の交流会を実施。(42回開催 延べ21校 延べ参加生徒数1,889人)
	南区管内の子育て中の母親等が育児不安を軽減し、地域の中で孤立することなくいきいきと安心して子育てができるよう、ボランティアを養成(子育て訪問支援員)し家庭訪問による支援を行う(子育て訪問支援員養成:10名訪問活動5世帯延べ16回実施)
	子育て支援センターと連携を図り、地域の子育てサークル等を実施(子育てほっとステーションの中で相互の情報共有も図りながら地域での子育て支援を行っている)
3.	子育て支援マップ作成、こんにちは赤ちゃん訪問事業で配布。
	子育て世代の保護者の孤立化を防ぐとともに健やかに育てできる環境整備を図るため、こんにちは赤ちゃん事業による訪問の実施(区役所1,530件、助産師会1,623件、産科医療機関283件、地域訪問2,719件 計6,155件) ※こんにちは赤ちゃん事業については、身近な地域での継続的な子育て支援につながるよう地域組織による第1子の訪問を実施している校区あり
	学校のいじめ防止等対策委員会に保健師が出席し、情報交換を実施しているところもある。(西区5回)
	中学3年生以上を対象としたエイズ・性感染症予防出前講座を実施(中学13校、高校・専門学校2校)
	高校・専門学校へ専門医(泌尿器科医、産婦人科医)を派遣し、エイズ・性感染症予防講演会を実施(高校5校、専門学校3校)
4.	高校文化祭で、高校保健委員や大学生ボランティア(熊本大学医学部保健学科の学生)の協力の元、ピアエデュケーション(仲間教育)の手法を取り入れたエイズ・性感染症予防啓発に関するキャンペーンを実施(高校1校)
	啓発キャンペーンを2回実施。学校保健会主催のイベント会場で大学生ボランティア(熊本大学医学部保健学科)の協力の元、啓発物の配布やステージ啓発を実施(1日間1回)。JICA九州との共同企画でエイズフォーラムを実施し、講演会やワークショップ、啓発物の配布をした。
	学校等へエイズ・性感染症に関する啓発物の配布や教育用DVDの貸出しを行った(随時)

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度に引き続き、子育てに不安を持つ就学までの家庭に訪問して支援を行う「家庭訪問型子育て支援事業」を南区まちづくり予算を活用して実施(家庭訪問支援員養成研修及び訪問活動) ・子育ての現状、課題、ニーズ等の把握及び地域の新たな人材発掘を目的に、子育て世代を対象としたワークショップを開催。 ・各校区子育て支援ネットワーク会議の活性化を図る ・各区及び市子育て支援ネットワーク連絡会議の活性化を図る
---------	---

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目	(3)働き盛り世代の健康					
指標項目	7	特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上	基準値		実績値	目標値
			H23		H23	H29
			診査受診率	25.8%	26.4%	60.0%
指導実施率	16.8%	16.0%	60.0%			
取り組み施策	概 要					
1 若いころからの健康意識の醸成	校区における健康まちづくりの推進組織と職域保健、その他の関係団体、行政等が連携を図り、働き盛りの若い世代への健康に関する普及啓発を行う。					
2 生活習慣病の発症予防	関係機関が連携し、特定健康診査やがん検診等の必要性や受診方法等についての情報提供を行い、生活習慣病の発症予防に取り組む。					
3 働き盛り世代のこころの健康	市民へうつ病等の精神疾患に関する啓発を進めるとともに、ストレスの原因となる長時間労働や失業等の社会要因に対しては労働関係機関との連携を図り、働きざかりのこころの健康づくりを進める。					

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	定期検診と疾病の早期発見、早期治療の奨励。【市歯科医師会】
	口腔と全身との関係の啓発。【市歯科医師会】
	健康づくりを意識できるイベントを開催。【地域包括支援センター連絡協議会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に産業保健に関する研修会、また事業場からの事業場の要請による個別訪問を実施し心身の健康についての教育、保健指導等支援を実施。 【熊本産業保健総合支援センター】
	経済三団体(熊本県商工会連合会・熊本県商工会議所連合会・熊本県中小企業団体中央会)と協定を結び、事業所自ら健康経営を実践する仕組みであるヘルスター健康宣言事業を本格開始。平成29年度末で1,142社が健康宣言併せて宣言事業所の取り組み及び健診スコアによって393社をヘルスター認定。 【協会けんぽ】
2	歯周病へのアプローチによる生活習慣病の予防。【市歯科医師会】
	禁煙指導、禁酒(減酒)指導、食事指導。【市歯科医師会】
	35歳以上の加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含大腸・胃・肺・乳・子宮頸)、40歳以上の被扶養者に対し特定健診を実施。【協会けんぽ】(再掲)
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、生活習慣病に関する研修会を実施。 【熊本産業保健総合支援センター】
3	定期健康診断や人間ドックの受診を進めている。【楡木小】
	定期健康診断の確実な実施の指導による早期発見。【労働基準監督署】
	口腔内の不調がうつなどの精神疾患につながるケースがある事を啓発。【市歯科医師会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルス対策に関する研修会や情報提供を実施、また事業場からの事業場の要請による個別訪問を実施しメンタルヘルス対策の教育や体制づくりへの支援を実施。 【熊本産業保健総合支援センター】
	教職員対象の「精神科医・臨床心理士による相談」の日程周知を行うとともに、年1回のストレスチェックを実施する。【楡木小】
	事業場におけるストレスチェックの確実な実施を指導。【労働基準監督署】
	「熊本こころの健康アドバイザー制度」の周知。【労働基準監督署】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・他の政令市では行われている歯科の節目検診実施への働きかけ。【市歯科医師会】 ・健康づくりの意識を高めるイベントを開催する。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・宣言事業所のフォローアップとしてアンケートを実施。アンケート結果による事業所訪問(保健師、健康経営アドバイザー)を実施予定。【協会けんぽ】 ・協定先である「東京海上日動」「アクサ生命」「損保ジャパン日本興和ひまわり生命」と連携し、宣言事業所数の拡大を図る。【協会けんぽ】 ・健康まちづくり推進員協議会のH30年度の努力目標「糖尿病予防のPR」に重点をおき、特定検診の受診につなげるよう呼びかけを行う。【東区内】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	<p>校区単位の健康まちづくりの中で、関係機関、関係組織、PTA等の団体との連携を図り、健康チェックや生活習慣アンケート調査、健康学習会等を実施</p> <p>がん対策を推進する企業3社とがん対策企業等連携協定を締結(H29.5.25、H29.11.8)(再掲:(1)がん)</p>
2	<p>地域の会議や健康教育等において、がん検診や特定健診の受診勧奨を実施</p> <p>区内の医療機関と連携し、風邪等で単発で受診した市民に対し特定健診勧奨ができるようチラシを作成し、配布した。</p> <p>市民が生活習慣を振り返り生活習慣病を予防するために、健康チェックやアンケートを実施し情報を提供</p> <p>校区単位の健康まちづくり事業の中でまちづくりセンターなど関係機関・関係組織等と連携を図り、市民が生活習慣を振り返り生活習慣病を予防するために、健康チェックやアンケートを実施し情報を提供</p> <p>国保の働き盛り世代40代・50代のそれぞれに勧奨内容を変えて、ハガキによる特定健診受診勧奨を実施</p>
3	<p>市民への精神疾患の啓発として、講演会でのパンフレット配布、市政だより、ホームページを活用した啓発の実施。</p> <p>市民への講演会(1回 参加者45人)</p> <p>居宅・包括職員、企業職員等へのストレスに関する講話(8回・参加者327人)</p>

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発モニターを活用し健康情報の提供 ・PTAバザー時に保護者に対し健康チェック等を実施し、保健指導及び情報提供を行う。
---------	---

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目		(4) 高齢者の健康			
指標項目	20	65歳以上の元気な高齢者の割合	基準値 H22 80.6%	実績値 H23 78.0%	目標値 H34 現状維持
	21	認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上	基準値 H22 0.4%	実績値 H23 /	目標値 H29 5.0%
	22	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	基準値 H27 50.3%	実績値 H30 51.6%	目標値 H34 80.0%
	23	二次予防事業利用者の見込み	基準値 H23 1,048人	実績値 H23 /	目標値 H23 2,788人
取り組み施策		概要			
1.	元気高齢者の増加	高齢者の健康づくりに関する食や運動(ロコモティブシンドローム予防)、口腔保健などの情報提供等を行い、高齢者の健康増進を図る。			
2.	介護予防	要介護状態にならないよう、介護予防に関する支援体制の充実等を図る。			
3.	認知症高齢者支援	認知症の早期発見や早期治療を推進するとともに、認知症高齢者や家族の相談体制の整備等を図る。			

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1.	口腔内の環境を整えることにより、食を楽しむ。【市歯科医師会】
	歯が丈夫な人は体全体の健康度が高く、気力も充実しているので、定期検診、定期管理の励行。ハッピーライフカードの無料健診への協力。【市歯科医師会】
	誤嚥性肺炎予防について、シティFM健康サロンで啓発。誤嚥性肺炎予防には「口腔ケアとトレーニング」が重要なことなどをアナウンスした。【県看護協会】
	熊本市内4ヶ所、市外10か所で健康相談・血圧測定・体脂肪測定を行う「まちの保健室」においてロコモティブシンドローム予防・口腔保健などの情報を提供している。【県看護協会】
	いきいき百歳体操を広めている。【地域包括支援センター連絡協議会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、50歳を超えてからの健康づくりや転倒リスク回避のための強化法、健康不調を予防するセルフケアのやり方等の研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
	託麻原校区、帯山校区、帯山西校区の健康はつらつ教室やふれあいいきいきサロンにて、運動、口腔、栄養について啓発と簡易な実践を行った。【中央区内】
	託麻原校区では「サロン第交流会」を開催し、共通する課題を明確化したり、それぞれの町内の状況理解と相違点を知ることができ、創造的に問題を捉える機会となった。【中央区内】
	健康まちづくり推進員が各地域のサロン、老人会他に出かけて、ロコモ体操、健くま体操、脳トレなどの実施。【東区内】
	老人会、民協、ささえりあを中心に、老人会や高齢者サロン等にて情報提供を行っている。【西区内】
2.	武蔵校区ふれあいサロン(毎週火曜日に各町内に午前中は頭の体操やゲーム。午後はカラオケ、発声練習などを開催。【北区内】
	オーラルフレイルの啓発と取り組み。【市歯科医師会】
	口腔ケアや機能訓練の実施。【市歯科医師会】
	平成29年度地域包括支援センターネットワーク等強化学業補助金を活用して、「いきいき百歳体操大交流会」を熊本学園大学で開催し、県内、熊本市内での普及活動を実施した。【中央区内】 帯山校区2町内の訪問型の活動の波及効果も認められ、他校区(出水南、黒髪、山之内等)でも同様の活動が実践し始められてきた。【中央区内】
	町内の公民館、地域の施設等で健康体操(百歳体操他)の実施。【東区内】

	よく噛むことは脳血流を増加し、認知症の予防につながるので、定期的な受診を促す。【市歯科医師会】
	往診体制の整備。【市歯科医師会】
	看護職向け認知症高齢者に看護実践に必要な知識を2日間インターネット研修で開催し、同じ内容で3回研修を実施した。受講生545名内容は患者・家族の支援につながるもの。【県看護協会】
3	帯山中学校校区の、託麻原、帯山、帯山西の各小学校4年生への認知症キッズサポーター養成講座は平成29年度末で、2,000人を超えるキッズサポーターが誕生した。【中央区内】
	託麻原校区では、校区社会福祉協議会主催にて「認知症介護家族のつどい」を引き続き開催しているが、できるだけ当事者家族が主体的に運営に参画するように試みている。【中央区内】
	認知症サポーター養成講座を小学生や地域ボランティアにも実施。【東区内】
	認知症徘徊模擬訓練の実施。【東区内】
	認知症、声かけ模擬訓練(毎年1回実施) H30年3月まで3年連続実施。【北区内】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者歯科検診のさらなる推進。それ以前の高齢者への対応。【市歯科医師会】 ・ハッピーライフカード無料検診への協力。【市歯科医師会】 ・いきいき百歳体操を広めていく。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・帯山校区では、校区社会福祉協議会主催にて「認知症徘徊者捜索・声かけ模擬訓練」を予定している。【中央区内】
---------	---

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等																															
1	<p>自治会や校区社会福祉協議会、民生児童委員等の関係機関との協働により、高齢者健康サロン等を実施。高齢者健康サロンやその他老人会、地域の会議等で栄養指導や運動(ロコモ予防)、口腔機能維持等についての健康教育を実施</p> <p>地域における介護予防※・ロコモティブシンドロームに関する啓発実績 (92校区中 80校区 計 268回 6,563人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数</p> <table border="1"> <tr> <td>中央区(19校区)</td> <td>85回</td> <td>2,136人</td> <td>その他</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>東区(17校区)</td> <td>44回</td> <td>1,187人</td> <td>その他</td> <td>2回</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>西区(10校区)</td> <td>24回</td> <td>635人</td> <td>その他</td> <td>18回</td> <td>412人</td> </tr> <tr> <td>南区(14校区)</td> <td>64回</td> <td>1,503人</td> <td>その他</td> <td>1回</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>北区(20校区)</td> <td>21回</td> <td>485人</td> <td>その他</td> <td>9回</td> <td>140人</td> </tr> </table> <p>※高齢者健康サロン等による体力測定の実施と評価・分析(おたっしや21健診)も実施</p> <p>自治会や校区社会福祉協議会、民生児童委員等の関係機関との協働により、高齢者健康サロン等を実施。高齢者健康サロンやその他老人会、地域の会議等で栄養指導や運動(ロコモ予防)、口腔機能維持等についての健康教育を実施</p> <p>65～74歳には国保特定健診、75歳以上には後期高齢者健診・歯科口腔健診を実施</p>	中央区(19校区)	85回	2,136人	その他	0回	0人	東区(17校区)	44回	1,187人	その他	2回	44人	西区(10校区)	24回	635人	その他	18回	412人	南区(14校区)	64回	1,503人	その他	1回	21人	北区(20校区)	21回	485人	その他	9回	140人
中央区(19校区)	85回	2,136人	その他	0回	0人																										
東区(17校区)	44回	1,187人	その他	2回	44人																										
西区(10校区)	24回	635人	その他	18回	412人																										
南区(14校区)	64回	1,503人	その他	1回	21人																										
北区(20校区)	21回	485人	その他	9回	140人																										
2	<p>元気サロン開始前後に体力測定や組成計測を行い、参加者の運動機能向上の評価を行った。</p> <p>住民主体の介護活動を支援する「くまもと元気くらぶ」を創設した。(18団体を支援)</p>																														
3	<p>認知症について正しく理解し、認知症の方や家族を見守る「認知症サポーター」を養成するための講座を実施。(認知症サポーター養成数 9,533人)</p>																														

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・校区事業の中で元気サロンについて情報提供を行う。 ・地域ケア個別会議に出席し、関係機関と支援体制の充実を図る ・重複頻回受診者に「元気くらぶ」の情報提供を行う。
---------	---

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目		(1) 栄養・食生活					
指標項目	24	適正体重を維持している者の増加 (40歳～60歳代男性・女性の肥満者の割合の減少)	基準値		実績値	目標値	
			H23		H29	H34	
			男性	31.7%	33.8%	28.0%	
		女性	17.7%	17.5%	14.0%		
	25	健全な食生活が実践できる市民の割合	基準値		実績値	目標値	
			H24		H29	H30	
			54.8%	43.3%	79.0%		
	26	共食の増加 (食事を1人で食べる子どもの割合の減少)	朝食	小学生	16.7%	14.4%	減少傾向へ
				中学生	24.3%	24.6%	減少傾向へ
			夕食	小学生	5.2%	4.2%	減少傾向へ
				中学生	11.1%	15.9%	減少傾向へ
			基準値		実績値	目標値	
H24			H30	H30			
27	20、30代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	基準値		実績値	目標値		
		H24		H30	H30		
		20歳代	29.4%	18.9%	15.0%		
	30歳代	29.4%	17.3%	15.0%			
取り組み施策		概 要					
1	食育への理解と食育活動の実践	広く市民を対象とした食育事業の取り組みを継続するとともに、ターゲットを絞った食生活改善のための講座を関係団体と連携を図りながら推進する。					
2	食育活動の実践のための食環境整備	栄養成分表示や減塩食普及などのヘルシーメニューを提供して市民の健康づくりを応援する飲食店等の増加に努め、食の環境整備を図る。					

1. 主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	食事指導、食育指導を行う。【市歯科医師会】
	食事がしっかり食べられる口腔内環境整備の啓発。【市歯科医師会】
	う蝕や肥満と関係する糖分のとりすぎや、だらだら食べ、早食いへの注意喚起を行う。【市歯科医師会】
	地域サロンなどで栄養士の講話などを実施した。【地域包括支援センター連絡協議会】
	事業場の産業保健スタッフを対象に、健康を支える食育の研修会を実施。 【熊本産業保健総合支援センター】
	「子どもの心も育む食」と題して乳幼児期の食生活についての研修を行った。保育士等111名の参加があった。【市保育園連盟】
	各園で実施している「食育活動」について、保護者へ啓発する中で、各家庭での食育の重要性や具体的な働きかけ等について、ヒントやきっかけができる情報・機会等を提供する。 【私立幼稚園・認定こども園協会】
	保健学習や食に関する指導を通して、食育を行っている。また、食育だよりや保健だより等を通して、保護者へ啓発を行っている。【楡木小】
	生活習慣病予防を目的とした献立について、小学校区ごとに調理実習を通じて普及・啓発を行う「すこやか食生活改善講習会(熊本市委託事業)」を実施(H29年度実績:92校区 2,084人) 【食生活改善推進委員協議会】
	地域にて、食生活改善を中心とした生活習慣病予防および子ども・高齢者への健康づくりに関する調理実習や啓発活動等(地区組織活動)を実施(H29年度実績: 9,368回 42,815人) 【食生活改善推進委員協議会】

1	地域包括支援センターの健康はつらつ教室にて管理栄養士の講話を行っている。【中央区内】
	校区の食生活改善推進員が小学校の保護者や地域の育児サークル等で生活習慣病予防や地域の伝承料理について情報提供【西区内】
2	食環境整備事業として、健康づくり応援店での栄養成分表示等の対応を行う栄養アドバイザーを養成している。【県栄養士会】
	各園での「給食参観」・「給食試食会」・「給食メニュー表配布」や「園内食育活動」等を通して、育てる・食べる・栄養への感謝の気持ちや自然とつながっていること等について、保護者へ啓発する。【私立幼稚園・認定こども園協会】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の啓発活動を行う。【市歯科医師会】 ・引き続き、地域サロンなどで栄養士の講話などを実施する。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・健康づくり応援等の対応ができるよう栄養アドバイザーを養成し、食環境整備を図る。【県栄養士会】 ・託麻原校区では、食生活改善推進員がふれあい・いきいきサロンを立ち上げる予定である。【中央区内】 ・市民に分かりやすく情報提供できるよう、行政と連携し、健康に関する市民の関心度や健診などの状況を把握すると共に、自己啓発にも努める。また、健康づくり熊本市民応援団として、食育や運動（ウォーキングや健くま体操）を通して、広く市民と関わっていくことを目標とする。【南区内】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	朝食欠食の改善、共食の増加に向け、子どもの食育推進ネットワークを通じた食育活動を実施
	食生活改善推進員と協働で生活習慣病予防の活動を実施
	市民に食育のホームページを活用頂く為に、QRコード付きPRチラシを作成した。出産した親子には全て届くよう、赤ちゃん訪問での全世帯配布や、地域の様々なイベントで配布した。
	市民が健全な食生活を実践するために、対象に合わせた生活習慣病予防のための「食育実践講座」を開催（開催回数179回）
	食育月間（6月）毎月の食育の日（19日）合わせた形で、各区において市民啓発を実施。
	食育推進ネットワーク（東区エリア）を活用し、食育推進啓発資料（①子どもと楽しむ食育活動のヒント ②備えよう 知っておこう 子育て世代向け 食料品備蓄ガイド ③子どもと一緒に食のきほんBOOK）を作成。
2	市民が身近なところで食育を実践しやすい環境整備のために、食事バランスガイドや栄養成分表示等を実践する「健康づくりできます店」の増加（登録店217店）
	栄養に関する表示を希望する企業の相談を各区で実施。

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進ネットワーク（東区エリア）で作成した。食育推進啓発資料を活用し食育推進活動を実施する。 ・食生活改善推進員・校区防災連絡会等と協働で、地域リーダー及び保育園や幼稚園等の保護者など若い世代を対象に、有事の際にも栄養・衛生面に配慮した食生活を実践できるように、地域で防災食育（調理実演、親子クッキング、食育劇等）を実施する。
---------	--

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目		(2) 身体活動・運動					
指標項目	28	日常生活における歩数の増加	基準値		実績値	目標値	
			30		H30	H34	
			20歳～64歳	男性	8,262歩	8,324歩	9,000歩
			女性	8,058歩	8,287歩	8,500歩	
	65歳以上	男性	6,859歩	5,761歩	7,000歩		
	女性	7,053歩	7,822歩	6,000歩			
29	1回30分以上の運動(ウォーキング等)を週1回程度以上している市民の割合	基準値		実績値	目標値		
		H24		H29	H30		
		52.7%		50.0%	60.0%		
取り組み施策		概要					
1	運動習慣の定着化に向けた取り組みの推進	生活習慣病予防や健康増進のため、市民の運動習慣の定着を図る。					
2	運動に取り組みやすい環境づくり	市民の健康増進のために運動に取り組みやすい環境づくりを行う。					

1. 主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	適度な運動の奨励。【市歯科医師会】
	歩くイベントを開催した。【地域包括支援センター連絡協議会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、運動指導士による健康づくりのための運動に関する研修会、情報提供を実施【熊本産業保健総合支援センター】
	ウォーキング大会を実施。【協会けんぽ】
	「健康＝運動」の重要性を踏まえ、各園において、遊びを通じた運動や園児一人ひとりが実感が持てる(運動の楽しさ)環境作りを実践する中で、基本的な生活習慣を自然と身につける。 【私立幼稚園・認定こども園協会】
	熊本市の各小中学校単位PTAにおける研修会の実施に助成する単P研修会助成制度の展開。H29年度は総計25校に助成金を支給(上限1万円)H28年度は震災後の心のケアに関する講演会が多かったがH29は各校ごとに特色のある講演会・研修会が実施された。(例:東部中2/13「一生懸命はカッコイイ!! そのためには・・・」講師:高橋尚子)【PTA協議会】
	各校区体育協会の中で地域住民が気軽に参加できるようなスポーツイベントを企画 【市スポーツ推進委員協議会】 ・校区行事の企画、運営、指導を行う(ミニバレー大会、卓球大会、グラウンドゴルフ大会、バドミントン大会、Tボール大会、ソフトバレー大会 他) ・親子スポーツ大会を開催(各区ごとに年1回)
	総合型スポーツクラブ主催で放課後子供スポーツ教室を3年生対象に開催した。(ニュースポーツ、バドミントン、水泳、バスケット、サッカー、タグラグビー、体操教室、囲碁教室)など多種目で行った。 【市スポーツ推進委員協議会】
	帯山校区2町内では毎週木曜日の夜健康づくりを目的に、ビーチバレー等幾つかの種目を用いて、健康づくりに取り組んでいる。【中央区内】
	校区の健康まちづくり部会や体協などが中心となり、地域の歴史がわかるクイズコーナーをコースに設置するなどしながら「健康ウォークラリー大会」を開催。【西区内】
老人クラブを中心に月曜日から土曜日までグラウンドゴルフで運動している人が多い。【北区内】	

	<p>日常の遊びは勿論、「運動遊び(室内外)」「園外保育」「講師による指導」「保育参加」等を通して、身体を動かすことの楽しさや大切さ等を知る機会を提供する。【私立幼稚園・認定こども園協会】</p>
2	<p>スポーツ推進委員の研修会、県大会、九州大会等に参加して自分のスキルを高めるとともに、他県の活動など参考にして、情報交換会等で、交流を深め、学んだことを少しづつ取り組んでいく。 【市スポーツ推進委員協議会】</p>

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き歩くイベントを開催。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・医療費削減のために、ロコモティブシンドロームにならないために、お年寄りのための、ロコモ体操を、総合型地域スポーツクラブ主催で、ロコモ教室やグラウンドゴルフ大会を行う。 【市スポーツ推進委員協議会】 ・ささえりあさんに、グラウンドゴルフの受付などを協力してもらい、ささえりあさんが取り組んでいるサロンに、レクリエーションや、ストレッチなどの指導に出かける。【市スポーツ推進委員協議会】 ・今年も3年生対象に総合型スポーツクラブ主催で放課後子供スポーツ教室を行う。 【市スポーツ推進委員協議会】 ・市民に分かりやすく情報提供できるよう、行政と連携し、健康に関する市民の関心度や健診などの状況を把握すると共に、自己啓発にも努める。また、健康づくり熊本市民応援団として、食育や運動(ウォーキングや健くま体操)を通して、広く市民と関わっていくことを目標とする。 【南区内】 ・年3回実施のグランドゴルフ大会の開催。【北区内】 ・ふれあいウォーキング、ウォークラリーの開催。【北区内】 ・さわやかラジオ体操の開催。【北区内】 ・むさし秋フェスタで健康チェック。参加者の増加をはかる。【北区内】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
	<p>地域の健康づくりイベントや健康教室などを通し、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動(生活活動・運動)についての普及啓発を実施</p>
1	<p>「東区健康まちづくり推進員協議会」において、運動を通じたコミュニティづくり活動として、各校区の健康づくりイベント等において体力測定や体操の指導を実施した。実績は、延61回、延231名の推進員が活動した。</p> <p>地域の関係機関(自治会、体育協会等)や職域保健との連携を通して、健康づくりのための身体活動の重要性及びプラス10分運動の普及啓発を図る</p> <p>若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、フェイスブックで健康情報を発信(再掲(3)糖尿病)</p>
2	<p>参加者が生活習慣病予防及び健康まちづくりの推進で校区の健康まちづくり実践者として参画できることを目的に「ウォーキングキャンペーン」を実施。期間中の総歩数(平均)の上位3校区及び個人を表彰するもの。歩数計、「ウォーキング手帳」の配布、ウォーキングの実技指導や健康運動指導等のイベントを開催。区のまちづくり推進事業としても位置づけており、熊本市社会教育振興事業団に事業委託。H29年度は、熊本市南区在住 18歳以上の男女210名(南区管内全21校区で1校区10名)</p> <p>総合型地域スポーツクラブの育成・支援のため、学校体育施設の年間優先確保や、総合型会員等との交流会や育成フォーラム等を実施した。 ※活動中のクラブ数21(51小学校区)、会員数6,126人(平成29年3月1日現在)</p> <p>熊本地震により被災したスポーツ施設の復旧・整備スポーツ施設の早期復旧に努め、復旧工事が完了した施設については、プレスリリースやホームページへの掲載等により市民に対し周知を行った。 また、主要なコンベンション施設である市総合体育館の復旧にあたっては、原形復旧と併せて耐震化工事(特定天井の改修)の設計を実施した。</p> <p>学校体育施設の夜間開放子どもから高齢者まで市民が気軽に利用できるスポーツの場として、学校教育に支障のない範囲で学校施設を開放した。 ※小学校:92校、中学校42校 計:134校</p>

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み

- ・平成30年9月下旬～11月下旬に南区「ウォーキングキャンペーン」を実施。
南区管内校区の体協長を通じて各校区10名と、市政だよりで公募した90名の参加者を募る。
- ・熊本市民スポーツフェスタの実施・検討
子どもから高齢者までスポーツに親しめる大会として、春季に校区対抗競技8種目、夏季にウォータービーチバレー他5種目、秋季に体操教室他6種目、冬季にスケート教室他4種目を予定。
また、フェスタの参加者を増やすことが、スポーツの習慣化につながることから、今年度、実行委員会にて開催形態の検討を行う予定。
- ・水前寺江津湖公園の利活用と保全に関する計画を策定する予定であり、その中で、ウォーキングなどの運動に関する健康プログラムのスキームを検討予定。

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目	(3)休養				
指標項目	13	睡眠を十分にとっている市民の割合	基準値	実績値	目標値
			H24	H29	H30
	14	ストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合	基準値	実績値	目標値
			H24	H29	H30
			53.3%	50.3%	68.7%
			51.1%	43.1%	65.7%
取り組み施策	概 要				
1	「睡眠」の重要性の理解と実践	市民に睡眠や休養の重要性について正しい理解の普及啓発を図るとともに、職域保健と連携し、睡眠や休養に関する取り組みを推進する。			
2	休養がとれるための環境づくり	市民に休養のとり方やストレス対処法などについて情報提供を行うとともに、市民が悩みを相談できる環境整備を行う。			

1. 主な取り組み状況等

取り組み状況等	
	ストレスと歯科疾患との関連性(歯ぎしり、食いしばり等)の啓発。【市歯科医師会】
1	アロマを取り入れたストレスケアや各種リラクゼーション法、筋弛緩法や自律訓練法・ストレッチやマッサージ等のセルフケア研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
	各園及び団体を通して「睡眠の重要性」について保護者へ啓発するとともに、日常の保育において「寝ることの大切さ」について、絵本や紙芝居等も含め自然と学べる機会を提供する。【私立幼稚園・認定こども園協会】
2	事業場を対象にストレス解消のやり方等個別訪問し教育を実施。ホームページやメールマガジンにて、ストレス対処法等の情報提供を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

H30年度は上記内容を継続して取り組む予定。

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	地域の各種健康イベント等を通して、健康づくりのための「睡眠指針2014」の内容について啓発を実施。
	保護観察所事業、ふれあい出前講座等において、ストレス対処法について講話を実施。(引受人会講話3回 参加者数104人、出前講座等 8回 参加者327人)

H30年度は上記内容を継続して取り組む予定。

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目	(4) 飲酒						
指標項目	30	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者(男性は清酒換算2合以上、女性は清酒換算1合以上の者)の割合の減少	基準値		実績値	目標値	
			H23		H28	H34	
			男性	14.0%	13.6%	11.7%	
		女性	8.9%	9.8%	7.8%		
	31	未成年者の飲酒をなくす 国参考値	基準値		実績値	目標値	
			H22		H26	H34	
			中学3年生	男子	10.5%	7.2%	0%
				女子	11.7%	5.2%	0%
			高校3年生	男子	21.7%	13.7%	0%
		女子	19.9%	10.9%	0%		
32	妊娠中の飲酒をなくす	基準値		実績値	目標値		
		H24		H29	H34		
		3.7%		3.2%	0%		
取り組み施策		概要					
1	適正飲酒の普及啓発	市民に飲酒に関する情報提供を行い、適正飲酒の普及啓発を図る。					
2	未成年者への情報提供	市民や教育機関等と連携し、未成年者の飲酒防止を推進する。					
3	妊娠中や授乳中の飲酒の防止	市民に妊娠中や授乳中の飲酒について情報提供を行い、正しい理解の普及啓発を行う。					

1. 主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	禁酒(減酒)指導。【市歯科医師会】
2	保健学習や学級指導を通して飲酒の害や未成年者の飲酒防止について学習している。【楡木小】
	公立校に非常勤で配置されている各学校薬剤師が飲酒・喫煙・薬物乱用防止教室を実施している。【市薬剤師会】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・H27.7肥前精神医療センター主催の「ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修」に参加した。今後の減酒支援に活用していく予定。特定保健指導におけるAUDIT実施後の評価を行い、今後の減酒支援に活かす。熊本県主催減酒支援研修に参加しスキルアップを図る。センター職員にHAPPYプログラムを実施検討中。【日赤熊本健康管理センター】 ・学年に応じた飲酒防止の保健指導を実施。【御幸小】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	健康まつり等区内で実施する各種イベントにて、アルコールパッチテストやアルコール関連の啓発を実施。
	熊本地震被災者向け資料「飲みすぎに注意しましょう」をホームページに掲載し、継続して啓発を実施。飲酒に関する情報提供・普及啓発として、依存症講演会(1回 参加者:30人)、依存症研修会(1回、参加者92人)、ホームページでの依存症に関する情報提供、依存症家族教室(23回 参加者:延べ107人)を実施。
	アルコール関連問題啓発週間において、適正飲酒量についてのパネル展示を実施。
2	教職員を対象とした「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育研修会を開催。(講師:公益財団法人日本学校保健会事務局顧問 並木 茂夫 氏/参加:141人)
3	親子(母子)健康手帳交付時や妊婦健診・妊婦訪問及び育児相談等の際に、妊娠中や授乳中の飲酒を行わないよう保健指導を実施

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	健康まつり等区内で実施する各種イベントにて、アルコールパッチテストやアルコール関連の啓発を実施
---------	---

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目	(5)喫煙					
指標項目	33	「たばこを吸わない」と答える市民の数を増やす	基準値	実績値	目標値	
			H24	H29	H30	
			70.7%	73.1%	増加傾向	
	34	COPDの認知度の向上	基準値	実績値	目標値	
			H27	H30	H34	
			58.8%	54.1%	80.0%	
	35	受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	基準値	実績値	目標値	
			H27	H30	H34	
			行政機関	7.7%	5.8%	0%
			医療機関	6.3%	4.4%	0%
			職場	30.2%	22.6%	受動喫煙のない職場の実現
			家庭	23.6%	21.6%	3.0%
	36	妊娠中の喫煙をなくす	基準値	実績値	目標値	
			H23	H29	H34	
			5.5%	3.4%	0%	
	37	未成年者の喫煙をなくす	基準値	実績値	目標値	
			H22	H26	H34	
国参考値						
中学1年生			男子	1.6%	1.0%	0%
			女子	0.9%	0.3%	0%
高校3年生	男子	8.6%	4.6%	0%		
	女子	3.8%	1.5%	0%		
取り組み施策		概 要				
1	禁煙の支援	イベントや学校、職場等においてたばこの害についての啓発を進めるとともに、禁煙の指導を受けることのできる場所や相談先の情報提供を行い、禁煙の支援を行う。				
2	受動喫煙防止	行政施設、事業所等での禁煙を進めるとともに、幼児健診等の場を活用し、家庭での禁煙・分煙等の啓発を行う等、受動喫煙防止に取り組む。				
3	妊娠中・授乳中～未成年の喫煙防止	妊娠中、授乳中の女性や同居家族の喫煙が子どもに及ぼす影響について、親子(母子)健康手帳交付時に知識の普及に努めるとともに、学校における喫煙防止教育を推進する。				

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	喫煙と歯周病、口腔癌との関係を啓発し、禁煙指導を行う。【市歯科医師会】
	禁煙指導薬剤師育成のための研修会を開催している。【市薬剤師会】
	会館及び敷地内は禁煙とし、研修受講者に禁煙を呼びかけている。【県看護協会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、喫煙の健康影響と禁煙支援、COPDの啓発等の研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
2	受動喫煙による歯肉への着色や口腔内環境の悪化を啓発し、禁煙指導を行う。【市歯科医師会】
	建物内及び敷地内で禁煙の貼り紙を表示している。【市薬剤師会】
	受動喫煙防止対策助成金の周知。【労働基準監督署】

	妊婦歯科健診に来た妊婦さんに、妊娠中の喫煙と早産の関係や、出産後の子供の受動喫煙の害に対する啓発を行い、禁煙指導を行う。【市歯科医師会】
3	学校薬剤師による喫煙防止教育を行っている。【市薬剤師会】
	保健学習や学級指導を通して喫煙の害や喫煙防止について学習している。【楡木小】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙のリーフレットや海外タバコのパッケージなど禁煙情報提供のブースを作成予定。加熱式タバコに関する内部資料を作成中。禁煙治療セミナーに参加し情報収集。【日赤健康管理センター】 ・学年に応じた喫煙防止に関する保健指導を実施。【御幸小】
---------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
	禁煙にチャレンジする方に向けて、禁煙に関する情報を掲載し禁煙の記録欄を設けた「禁煙手帳」を作成し、禁煙を希望する市民へ配布を行った。
1	<p>平成29年度地域における喫煙・COPDの啓発実績 (92校区中 36校区 計70回 1,777人)※その他は区単位、ブロック単位での啓発数</p> <p>中央区(18校区 40回 1,124人 その他 0回 0人) 東区(1校区 1回 36人 その他 0回 0人) 西区(3校区 10回 342人 その他 2回 18人) 南区(5校区 9回 71人 その他 1回 9人) 北区(9校区 3回 109人 その他 4回 68人)</p>
2	幼児健診等の場を活用し、幼児へのタバコの影響について啓発を実施。家庭での禁煙・分煙の啓発を行った。
3	親子(母子)健康手帳交付時に妊婦や乳幼児へのタバコの影響について啓発及びマタニティマークを交付。
	親子(母子)健康手帳交付時、妊婦やその家族に喫煙者がいる場合、禁煙手帳を配布。

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・親子(母子)健康手帳交付時、妊婦やその家族に喫煙者がいる場合、引き続き禁煙手帳を配布。 ・禁煙手帳の保険者協議会加入団体への配布 ・世界禁煙デーや禁煙に関するポスター掲示、パネル展示 ・熊本県内で行われる国際スポーツイベント等での受動喫煙防止の啓発
---------	--

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目		(6) 歯・口腔の健康				
指標項目	38	3歳児でむし歯のない者の増加	基準値	実績値	目標値	
			H23	H29	H34	
				76.3%	79.4%	90.0%
	39	12歳児でむし歯のない者の増加(中学1年生) ※1人あたりのむし歯本数	基準値	実績値	目標値	
			H23	H29	H34	
				1.29本	0.81本	0.7本未満
	40	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少	基準値	実績値	目標値	
			H22	H29	H34	
				38.0%	58.6%	25.0%
	41	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	基準値	実績値	目標値	
H23			H30	H34		
			63.9%	87.5%	70.0%	
42	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加	基準値	実績値	目標値		
		H23	H30	H34		
			38.3%	87.5%	60.0%	
取り組み施策		概要				
1	子どものむし歯や歯肉炎の予防	乳幼児健診、相談、健康教育でむし歯や歯肉炎予防、生活習慣の情報提供の充実。				
2	歯周疾患の予防	20歳以上の年代に歯周病と低出生体重児等との関わりや口腔疾患が生活習慣病であることの周知に努め、歯科健診の啓発を図る。				
3	歯の喪失防止	・8020運動を目指すためにも、60歳代における咀嚼良好者の増加を目指す。 ・大学生等に対する歯周病対策を行うことで、8020の達成を図る				

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
	歯っぴー39チャレンジの啓発と、ハッピーライフカード無料健診への協力。【市歯科医師会】
	歯磨き巡回指導の実施とフッ化物洗口事業の拡大への協力。食事や生活習慣の指導。【市歯科医師会】
	【乳幼児・園児向け歯科健康教育】園児や保護者を対象に、むし歯予防講話や歯みがき指導を実施。【県歯科衛生士会】
	【小学生対象歯科健康教育】小学校3年生と特別支援学級を対象に、歯科講話と歯磨き指導を実施。(小学校歯みがき巡回指導事業)【県歯科衛生士会】
	地域サロンで歯科衛生士の講話と口腔のゲームを実施。【地域包括支援センター連絡協議会】
	歯科医から「乳幼児の保育に関わる方に今伝えたいこと」と題して講演会を実施。会員58名、会員外35名の計93名の参加があった。【市保育園連盟】
	「歯科健診」を通して、現在の子どもの歯の状態を知るとともに「良く噛む」事や「ブラッシング」の大切さを日々積み重ねる。「ブラッシング教室」や「フッ化物洗口」の実施園もあり。【私立幼稚園・認定こども園協会】
	保健学習や学級指導を通して歯と口の健康について学習している。【楡木小】
	保育所・小中学校等で、学校の先生や学校医・歯科医と協力し、むし歯予防等の歯科教育の支援を実施した。【8020健康づくりの会】
	地域の子育てサークル等で、寸劇や腹話術を行い、見える、聞こえる内容でお口の健康の大切さをアピールした。【8020健康づくりの会】
	地域の行事(区民まつり、夏まつり、秋まつり、運動会)等において、歯科健康ブースで地域住民にお口の健康の大切さをアピールした。【8020健康づくりの会】
	小学校におけるフッ化物洗口へ協力し、むし歯の減少をめざした。【8020健康づくりの会】

1	小学校(保健委員会)でピカピカ歯みがきリーダー任命式の協力をした。【8020健康づくりの会】
	校区のイベントにおいて校区の8020推進員と保健子ども課と一緒にむし歯予防の情報提供やフッ化物洗口の体験コーナーの実施。【西区内】
2	大学祭で「歯たちの健診」を実施。早期からの予防の実践を啓発。【市歯科医師会】
	自治体のイベントで歯科相談や無料健診を実施。定期健診の奨励。【市歯科医師会】
	熊本市内4ヶ所、熊本市外10ヶ所で健康相談・血圧測定・体脂肪測定等「まちの保健室」において生活習慣予防には口腔ケアが重要な事と情報発信している。【県看護協会】
	〔地域における歯科健康教育〕北区「いきいき未来のつどい」における歯みがき指導や唾液腺マッサージ、舌体操を実施。【県歯科衛生士会】
	〔仮設住宅での歯科健康教育〕3ヶ所(南田尻・平原・秋津)にて、歯科講話と口腔ケアを実施。【県歯科衛生士会】
	〔歯科相談・口腔衛生指導〕健軍商店街における歯科相談・口腔衛生指導を実施。【県歯科衛生士会】
	〔ラジオでの歯科啓発〕熊本シティFM健康サロンにおける口腔衛生知識の普及啓発活動を実施。【県歯科衛生士会】
	〔イベントでの歯科啓発〕笑顔ヘルシーキャンペーンにおける人形劇・歯磨き指導・口臭測定を実施(上通り)。【県歯科衛生士会】
	〔口腔衛生指導〕協会けんぽ実施の生活歯援プログラムにおいて口腔衛生指導を実施。【県歯科衛生士会】
	熊本県歯科医師会と連携し、事業所における歯援プログラム[質問票及びペリオスクリーン(唾液検査)の実施による歯科指導及び歯科医への受診勧奨]を実施した。(12事業所240名に対し実施)【協会けんぽ】
学園大の大学祭の「歯たちの健診」において、案内チラシやリーフレット(歯と口の大切さ)を配布し、健診の呼びかけに協力した。【8020健康づくりの会】	
3	8020運動の推進と8020達成者の表彰を行う。【市歯科医師会】
	オーラルフレイルの啓発と対処。【市歯科医師会】
	〔歯科健康教育〕地域コミュニティセンターや地域のサロンにおいて口腔機能向上を目的として実施。【県歯科衛生士会】
	〔歯科啓発〕県民講座を開催し、口腔機能低下予防に向けた講話を開催し、歯科の啓発を実施。【県歯科衛生士会】
	地域の高齢者サロン等で、お口の健康の大切さや8020を達成できるように、定期歯科健診受診の必要性について啓発し、かかりつけ歯科医をつくるように促した。【8020健康づくりの会】
	8020表彰の周知や案内を行い対象者を募った。【8020健康づくりの会】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・歯っぴー39チャレンジの推進。産婦人科、小児科、薬剤師会等、関係団体への協力依頼。学校歯科医師のスキルアップと現場への積極的な係わりを促す。【市歯科医師会】 ・今後もサロン等で口腔ケアの講話やゲームなど楽しく参加できる内容を工夫し開催する。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・小学校のフッ化物洗口を熊本市8020健康づくりの会(中央・西支部)が受託し実施する。【8020健康づくりの会】 ・多くの大学の学園祭の実行委員会が集まる寺原自動車学校のT1フェスタにおいて実施される「歯たちの健診」に協力する(7月8日)【8020健康づくりの会】 ・「熊本市8020健康づくりの会」発足10周年記念行事として、笑顔ヘルシーキャンペーンにおいて、歯科医師会をはじめとする関係団体と一緒に、新市街から下通りのアーケードをパレードし、熊本市8020健康づくりの会の周知を図り、歯と口の健康づくりの大切さを市民に啓発する(11月4日)。【8020健康づくりの会】
---------	---

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	<p>歯っぴー39チャレンジの推進</p> <p>【歯科啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料歯科健診券付き予防啓発カード「Happy life」を配布し、定期健診を受ける市民を増やすとともに保護者から子どもへむし歯菌の感染を防ぐ取り組みを実施。(市役所・区役所で配布) ・市医師会会員の全ての医療機関においてむし歯予防リーフレットを配布して頂き、小さい頃からのむし歯予防意識の向上を図る取り組みを実施。(市役所・区役所で配布)
	<p>各区役所において1歳6か月児歯科健診、3歳児健診と個別口腔保健指導、地域における歯科健康教育などを実施し、むし歯や歯肉炎予防の充実を図っている。</p> <p>【1歳6か月児歯科健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科健診＋個別口腔保健指導＋フッ化物塗布 249回 6,629人 ※個別歯みがき指導を実施し、希望者にはフッ化物塗布実施(フッ化物塗布希望者:93.9%) <p>【3歳児歯科健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科健診＋個別口腔保健指導 196回 6,635人
	<p>【歯科健康教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦などを対象に実施 5回 40人 ・乳幼児対象:地域の子育てサークルや児童館、保育園等で園児や保護者対象に実施 98回 971人 ・児童・生徒対象:小中学校においてむし歯や歯肉炎予防の教室を実施 50回 4,244人
	<p>【フッ化物洗口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園や幼稚園等での実施 106園 / 219ヶ所(48.4%) ・保育園や幼稚園への事業説明会などの実施 98施設 ・小学校において実施 10校 / 92ヶ所(10.9%)
	<p>【歯科相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談や小中高生に関する歯科相談の実施 延べ 316回 3,245人 ・身体障害者手帳・療育手帳等をお持ちの未就学児を対象に歯科健診・相談及びフッ化物塗布を実施し、早期からのむし歯予防対策を実施 28回 129人 ・児童発達支援サービス事業 28回 427人 ・電話相談や地域における歯科相談の実施 11回27人
2	<p>【妊婦歯科健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科健診＋個別口腔保健指導 241回 3,151人(時間外対応:137回 158人含む)
	<p>【歯科健康教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センター等で妊婦等を対象に歯科講話や歯みがき指導等を実施 5回 40人 ・生活習慣病予防教室や地域における集会等において歯科保健意識の向上を図る 61回 960人
	<p>【歯科相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロン等において歯科相談を実施 37回 670人
	<p>【歯科啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオやテレビ等において口の健康と全身の健康の関係性について啓発
3	<p>【歯科健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者医療加入者を対象に歯科口腔健診を実施
	<p>【歯科健康教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロンや地域の集会等において口腔機能向上や歯科保健意識の向上を図る 101回 2,371人
	<p>【歯科相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所外での歯科相談を実施 49回 385人
	<p>【歯科啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の学園祭等で歯科健診や歯科相談、唾液検査等を実施し、歯科保健意識の向上を図る 1回 81人 ・6月の「歯と口の健康週間」や11月の「いい歯の日」など、市役所ロビーや地域等において歯科啓発を実施 ・熊本市8020表彰を実施し、歯と口の健康の必要性を啓発。受賞者:112人

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康相談日以外の歯科健診実施数の増加 ・区の子育て支援情報HPに「歯と口の健康づくり」に関する記事を掲載 ・フッ化物洗口の実施校の拡大を図る。 ・歯周病予防に関する取り組みの充実を図る。
---------	---

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

取り組み項目	(1)小学校区単位の健康まちづくり				
指標項目	43	市民と協働で健康をテーマとしたまちづくりを実施する校区の増加	基準値	実績値	目標値
			H23	H29	H30
			6校区	62校区	92校区
取り組み施策	概要				
1 市民・関係機関・行政との協働による健康まちづくりの推進	小学校区を単位とし、校区の健康課題や健康づくりの目標を市民と共有しながら、校区の特性に応じた健康をテーマとしたまちづくりの取り組みを推進するとともに、生活習慣が形成される時期に展開される学校保健との連携に努め、健康課題解決に向けた取組みを推進する。				

1. 主な取り組み状況等

	具体的な内容等
	校区単位の行事に積極的に参加して行く。【市歯科医師会】
	学校との協力関係や情報交換を密にする。【市歯科医師会】
	健軍商店街の医商連携による「健康フェア」へ参加し、生活習慣病等に関連したお薬相談会を行った。【市薬剤師会】
	健康づくりのイベントなどを地域住民と開催した。【地域包括支援センター連絡協議会】
	歩くイベントを多世代参加型で開催した。【地域包括支援センター連絡協議会】
	校区のイベントで健康コーナーを設け、血圧測定や血液検査、骨密度検査などを実施し、好評をいただいた。【地域包括支援センター連絡協議会】
	学校保健委員会を開催し、地域の関係者を交え、子どもの心身の健康、安全に関する情報交換と協議を行っている。【楡木小】
	託麻西校区健康づくり推進協議会では、毎年次のことを実施している(①ウォーキング大会②早朝ハイキング③ウォークラリー大会④西日本病院での健康講座⑤夏休みに子どもと一緒にラジオ体操他)【東区内】
	校区イベントの実行委員会の中で保健子ども課より校区の健康課題について説明してもらい情報共有・意見交換の実施。【西区内】
	健康まちづくり部会を中心に校区イベントに血管年齢測定など健康まちづくりコーナーを設け啓発活動を実施。【西区内】

H30年度は上記内容を継続して取り組む予定。

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
	各区で地域組織への趣旨説明、ワークショップ、会議等の働きかけ(個別訪問による説明含む) (中央区 111回 東区 84回 西区 152回 南区 48回 北区 115回)
	各校区主催のバザーや運動会等のイベント時での健康相談コーナーの開設や健康講座等の実施。 (中央区 134回 東区 50回 西区 50回 南区 64回 北区 33回)
	(中央区) <ul style="list-style-type: none"> ・「健康まちづくりレポート」をfacebookに掲載。 ・「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」の協力のもと各校区イベントで簡易血糖検査を実施。随時血糖が境界値以上のものは受診勧奨など個別指導を実施。(12校区 5,231人) ・「健康をつくるボランティア医師の会」の協力医療機関で簡易血糖検査を実施(661人)。結果を元に受診勧奨や保健指導を行うとともに糖尿病予防教室や健康相談でフォローを実施(境界地以上の者148名中糖尿病予防教室参加者5名、健康相談参加者2名) ・各校区の健康データを経年的に比較し、地域の方と健康課題について検討・評価しながら新たな対応を検討し実施。 ・食生活改善推進員、8020推進員、自治会会員等を中心とした健康まちづくりサポーターやリーダーを育成し、校区イベント等に従事。(健康相談コーナー等で地域住民への啓発を担当)
	(東区) <ul style="list-style-type: none"> ・健康まちづくりを推進する組織を設立 1校区 ・健康ボランティア(健康まちづくり推進員協議会、健康をつくるボランティア医師・歯科医師の会「とんぼの会」と連携し、地域の健康づくりイベント等において簡易血糖検査や健康相談を実施した。 ・健康まちづくりと地域包括ケアを一体的に推進することを目的に「東区まちづくりシンポジウム」を開催(H30.2.4 参加者256人)。
	(西区) <ul style="list-style-type: none"> ・校区自治協議会を母体とした「健康づくりを考える組織」と連携しながら推進 ・KDBシステム等を活用した医療費分析や特定健診結果分析の実施。全校区において健康づくり部会等で健康に関するデータや健康課題の共有。また校区の特性・健康課題に応じた健康づくり活動の展開 ・西区健康まちづくり活動報告会(H30.3.17西区フェスタと同時開催)。 ・平成24年度からの取り組みの成果として校区の健康づくり活動の特徴や強みについてインタビューを行い、今後の活動と推進をめざした「健康まちづくり事例集」を作成
	(南区) <ul style="list-style-type: none"> ・管内全校区の自治協議会へ健康まちづくり事業への取り組みを働きかけ、現在、19校区で事業展開中。 ・健康まちづくり評価指標アンケート実施。校区、347人の結果で、健康まちづくり認知度は77.2% ・全区的な事業展開として南区まちづくり推進事業との連動した「南区ウォーキングキャンペーン」を実施。これは、総歩数を団体、個人で競うイベントで全校区が参加。上位者・チーム(校区)が表彰さ
	(北区) <ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿と推進母体をもち、具体的な活動に取り組み且つ校区の健康まちづくりの成果指標を検討中の校区(2校区)、目指す姿と推進母体をもち、具体的な活動に取り組んでいる校区(5校区)、目指す姿と推進母体が決まっている校区(1校区)、目指す姿か推進母体のいずれかが決まっている校区(3校区)とそれぞれの校区の状況に合わせ推進している。 ・住民の健康づくりを支援するために、北区職員の健康にも関心が持てるよう「職員健康意識調査」を実施。また「職員向け学習会」を区の掲示板を活用し2回開催した。 ・健康まちづくり報告会をおらりきたくなる大学(北区まちづくり事業)と合同開催。内容を健康まちづくり活動報告と、住民と大学生、市職員とで今後の健康まちづくりやまちづくりについてのワークショップを実施。(97名参加。) ・成果指標を見直し、北区のまちづくりビジョンとの整合性を持たせた。
	(健康づくり推進課) <ul style="list-style-type: none"> ・職員を対象にしたソーシャルキャピタル(社会や組織における人と人との「つながり」の蓄積)についての研修会を開催。

4. 行政における上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンター職員との校区情報の共有・連携を図り、校区ごとの事業を推進する。 ・区内で取り組みの目標、実施内容、行動計画を共有し、役割分担を行い、効果的に事業を推進する。 ・まちづくりセンターとの連携・連動による区役所としての「まちづくり」と「健康づくり」の新しい「しくみ」の構築。 ・高平台校区、麻生田校区において、健康まちづくりワークショップを開催している。
---------	---

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

取り組み項目	(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援					
指標項目	44	健康づくり推進に関するボランティア数等の増加	基準値	実績値	目標値	
			H24	H28	H30	
				1,327人	1,580人	3,000人
	45	過去1年間に地域活動に参加した市民の割合 (参加したことがある)	基準値	実績値	目標値	
H24			H29	H30		
			46.7%	40.6%	60.0%	
取り組み施策	概要					
1	ボランティアの育成・支援	食生活改善推進員や8020推進員などの健康づくりに関するボランティア養成や活動支援に努めるとともに、「校区単位の健康まちづくり」を推進する部会を設置する等、組織化を図っていく。				
2	ボランティア支援体制の充実等	ボランティア活動に関する情報発信の場の提供など継続した活動を支援し、「健康づくり熊本市民応援団」や地区住民会議の取り組みを支援する。				

1. 主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	8020推進員の研修会や増員に協力する。【市歯科医師会】 熊本市内4ヶ所、熊本市外10ヶ所で健康相談・血圧測定・体脂肪測定を行う「まちの保健室」ボランティア従事者に対し、年に1度研修会を開催している。【県看護協会】 健康づくり支援者研修会を開催し、健康づくりボランティアを育成した。【地域包括支援センター連絡協議会】
2	8020推進員をはじめ、各ボランティア団体との協力を深める。【市歯科医師会】 東区健康まちづくり推進員がH30年度58名となり、推進員の定例会での情報交換とスキルアップ研修の実施。【東区内】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	健康づくり支援者研修会を開催。健康づくりボランティアを育成した。 【地域包括支援センター連絡協議会】 ・地域包括支援センターが帯山校区2町内及び他の町内でのボランティア養成・支援に関わっていく。【中央区内】
---------	---

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	東区健康まちづくり推進員養成講座(第4期生)を実施。(全8回、延べ参加数168名、修了者数21名) 健康まちづくり推進員の地域活動参加(延120回、延473人)。
	食生活改善推進員、8020推進員、自治会会員等を中心とした健康まちづくりサポーターやリーダーを育成し、校区イベント等に従事。(健康相談コーナー等で地域住民への啓発を担当) 健康づくりに関するボランティア養成、活動支援として、食生活改善推進員(H29実績73名)や8020推進員(H29実績49名)等の健康ボランティアを養成。
2	健康をつくるボランティア医師・歯科医師の会「とんぼの会」との連携、活動支援。 健康まちづくり推進員協議会の運営・活動支援(会員数45名、定例会4回5回、スキルアップ研修3回、延85名、明石市の健康ソムリエ視察を実施)。 「健康さるく熊本西(医療機関の医師等、専門学校の健康教育に関わる専門家、民間企業等で構成されたボランティア団体)」と連携して、校区単位の健康まちづくり事業等を実施している。
	食生活改善推進員活動の支援を実施(実績9,368回 42,815人)
	8020推進員活動の支援を実施(実績 延べ794回 55,994人)
	介護予防サポーター養成講座を実施。(全体1回+各区毎2回+地域における介護予防活動への参加1回/人 参加者 実59人)
	精神保健福祉ボランティア養成講座修了生のつどいを実施(3回 参加者:延べ12人)

H30年度は上記内容を継続して取り組む予定。

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

取り組み項目	(3)企業・大学等の健康づくり活動の促進				
指標項目	46	健康づくりできます店の登録数の増加	基準値	実績値	目標値
			H23	H29	H30
			109店	217店	200店
取り組み施策	概要				
1	職場における健康づくり	職域保健や企業と連携し、職場における健康づくりを推進する。			
2	産学公民の連携による健康づくり	大学や企業等と連携し、市民が健康づくりしやすい環境整備を図る。			

1. 主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	職場における歯科保健の向上に協力する。【市歯科医師会】
	定期歯科健診の実施を呼びかける。【市歯科医師会】
	連携して歯科の啓発を行う。【市歯科医師会】
2	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルスを含む産業保健の研修会を実施し、個別訪問による労働者の健康保持増進に取り組む体制づくりを支援している。 【熊本産業保健総合支援センター】

2. 上記以外のH30の取り組み予定

H30取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントなどで紹介できるように啓発をしていく。【地域包括支援センター連絡協議会】 ・東部YMCAの教室を借用し、介護予防・健康づくりを試みる予定。その際生徒も参加を検討している。【中央区内】
---------	---

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	<p>区内の企業に対し、従業員のがん検診受診勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を行った(1箇所)(再掲(1)がん)</p> <p>各区における大学生等の食事に関する実践力アップのための食育実践講座の開催(開催回数20回)</p> <p>全国健康保険協会(協会けんぽ)熊本支部と、健康づくりに関する包括協定に基づいた取り組みを実施。(再掲:(1)がん、(3)働き盛り世代の健康)</p>
2	<p>がん対策の推進に取り組む企業・団体等の拡充。</p> <p>がん対策を推進する企業・団体との協定締結に向け公募を実施(再掲:(1)がん)</p> <p>がん対策を推進する企業3社とがん対策企業等連携協定を締結(H29.5.25、H29.11.8)(再掲:(1)がん)</p>

H30年度は上記内容を継続して取り組む予定。

※参考：健康づくりできます店について

■健康づくりできます店とは

エネルギー等の栄養表示がある、野菜がもりもり食べられる、最後までたばこの煙に悩まされることなく、おいしく食事ができるなど、利用者の想いを実現したのが「健康づくりできます

■登録項目

- 1 健康サポートメニュー
 - 1) 栄養表示
 - 2) 食事バランスガイドの表示
 - 3) バランスメニューの提供
 - 4) 野菜もりもりメニューの提供
 - 5) くまもと減塩美食メニューの提供
 - 6) ヘルシーオーダーへの対応
- 2 地産地消
- 3 禁煙の推進(施設内を完全禁煙とする)



- * 登録店の目印は、上記の「ステッカー」です。
- * 健康に関する取り組み数は店舗によって異なります。

